

平成23年度 まちづくり座談会（長岡地区）

会場 長岡公民館

日時 7月26日（火）午後7時～9時

参加者 13人

役場出席者 14人(町長、教育長、建設部長、経営支援部長、教育部長、福祉課長、農林課長、学務課長、生涯学習課長、企画課長、防災室長、企画課職員3人)

質 疑 応 答

=====

自主防災の話、当地区でもやらなければと話しながら、なかなか進まない状態。何かひな形があればやりやすいのかなと思う。ほかの地区の例などを教えてほしい。

【防災室長】佐比内は地域全体、ほかはおおむね町内会や自治公民館単位で行っており、やはり顔が見える人々で組織をつくっています。

去年は3地区で新たに作られており、前郷地区では、古館11区と12区と一緒に組織を作っています。

私たちも、組織を作ろうとしているが、あまり具体的に計画ができない。長岡はAランクの水害地域であるが、実際に水害が起こった時にどのようになるのか分からず、シミュレーションができない。具体的に示してもらうことはできないか。

【防災室長】まずは、活動しやすい単位で始め、一人で逃げられないお年寄りがどこにいるのかなど、顔が見えるような活動で「できること」から訓練をはじめていただきたいと思います。災害の種類や規模によって対応が異なりますので、総務課防災室に相談していただきたいと思います。

例えば、消火栓はあるがホースがない。以前は地区で買っていたが、今は使えない状態。そういう場合には、町の方でも考えてくれるのでしょうか。

【防災室長】消防団の人に相談して年に2・3回ホースを使った訓練を行うなどの対策が考えられます。水を通すことによって、ホースの持ちが良くなります。ホースは1本最低でも3万円はします。町で補助を出すことはできないですが、消防後援会へ協力を依頼したり、分団の方々から古くなったホースをいただいたりすることもできると思います。いざというときに破裂して使えなくならないように消防団と相談しながら対策して欲しいと思います。

3.11 大震災の翌日、断水が起こった。給水車に来ていただいたが、なかなか給水情報を得ることができなかった。たまたま地域で集まりを行っているときに、ラジオのIBCで給

水情報が流れていたというのを聞き、助かった。広報は肝心だなと感じる体験をした。

【企画課長】3.11の震災では、伝達手段がなく重要な情報が流れないという状況に比較的長くさらされました。災害時には命の危険にも関わる事態になり得ます。これからも防災と合わせながら、重要な課題として取り組んでまいりたいです。

【建設部長】水道事業所もスピーカー車を備えているので、今後行われる防災計画の見直しの際には、断水時の給水車と広報のあり方を考えていきたいと思います。

堤防の管理の中で国土交通省が行っている草刈りがあるが、刈り取った草をそのまま残していく。刈った草をそのままにすると、ネズミが増えるようなので、心配している。これまでも、地元の人が家畜のエサにするなどのことがあったが、セシウムとの関係で今後は処分しなければならないと思う。焼却処分をするなど、なにか対応できないものか。

【建設部長】国交省に確認して、相談してみたいと思います。

【町長】近いうちに対応したいと思います。

その後の経過について（土木課）

座談会后、セシウムにつきましては問題になる数値ではないことが確認されましたので、刈り取った草の処理につきましては、地元で協議の上、処理していただくようお願いいたします。

本年度、長岡小学校体育館と紫波第二中学校の耐震工事が行われるとのことだが、震災の影響で、県からの補助金が減額されるということはあるのか。

【学務課長】減額はないので予定通り進める予定です。学校施設の耐震工事は3年ほど前から行っており、本年度は長岡小学校と紫波第二中学校が対象です。その後、紫波第一中学校、水分小学校を進める予定です。

農地水環境事業が終わりますが、継続の予定はないでしょうか。

【農林課長】今年で5年目となり最終年の事業になりますが、来年度以降も継続していただくよう国などに要望してまいります。

長岡小学校の体育館の耐震工事はいつからどのように始まるのか。子どもたちの通学はどのように対応すればよいのか。

【学務課長】工事は、8月下旬から始まります。公民館長や児童館などには7月に説明を行ったが、工事に入る前に、業者が決まり次第地元の人に説明したいと思います。夏休み明けの子ども達の生活に支障がないように準備したいです。

クマだけでなく、サルやタヌキ、シカなども出没している。被害を受ける前に対策を練れないものか。子ども達の登下校の道にも出たりしている。

【農林課長】クマが出没する場所は大体決まっているので、地域の方々から情報収集をするなどして、事前に対応できるように対策していきたいです。

以前クマの出没を報告したが「すべての手立てを行って、それでも効果がなければ檻をかける」と言われた。毎年、モモ ブドウ リンゴの順に被害に遭う。また、ニホンジカはハンターが撃てない。

【農林課長】農林課と環境課で対策を練っていきたいです。

長岡ゆめプランで地域づくり活動補助金のお世話になった。補助金は1年限りということだが、活動はこれからもまだまだ続く。補助金がなければ、収入源が全く無い状態があるので、地域活動補助金に継続性を持たせてもらえないだろうか。紫波中央駅前と農道との間が暗くて不安を感じる。規制を解除して、お店を出せるようにし、駅前を明るくしてもらえないか。街灯はあるが、やはり暗い。

【企画課長】地域づくり活動補助金は、4年前からの取り組み。長岡ゆめプランには、地区創造会議から発展的に頑張ってもらって活動していただいています。現在の制度では、同じ活動については3～4年に1回の補助給付としていますが、活動を続ける中で、資金が足りなくなるといったことはあり得ると思います。財政の問題もあるので、今後の課題としていきたいです。

【建設部長】希望ヶ丘線の街路灯、設置を検討したい。

電気は付けなくても良い。にぎわいがほしい。

【建設部長】現在の町の考えとしては、オガールの駅前開発に伴って、人の動きを増やしていこうという計画しています。

【経営支援部長】住宅公社の跡地を活用したいと考えて、地区住民の意見を伺いましたが、「子どもが来てうるさくしたら困る」ということで、子どもの家にすることは断念しました。このような経緯で、にぎわい創出は大切であると考えていますが、地元住民との合意が特に重要であると感じています。

史跡について調べられる場所を確保してほしい。廃版などになっている書籍もあるので、書籍だけでも一カ所に集めてほしい。

【企画課長】今度できる図書館は、地元のことがちゃんと調べられるような情報を揃えるように考えていますので、ご期待ください。

長岡の生活道路が、未整備の部分が多い。整備を進めていってほしい。

雪や雨が降ると、木が道に覆い被さってくる。なんとか刈り払えないか。

【建設部長】道路整備については、今後できるだけ進めていきたいと思っています。また、道路にかかる木については、場所を教えてくださいに行きたいと思っています。

農村公園のトイレの脇にある水道で、ホースまで用意して洗車している人がいる。自由に入出入りできるようになっているが、規制したほうがよいのではないか。

【建設部長】水道の元栓を止めるのが一番効果的であると思います。しかし、使用できないのは困ると思うので、元栓の上の部分を普段は取っておいて、使用するときだけに付けるという方法もあります。

しかし、よく親子で遊びにきている様子も見かけるし、使いたいときに使えないというのは、何のための施設かわからない。しかるべき機関に注意してもらうのが良いのではないか。

【建設部長】平日の日中であれば、役場にご連絡いただくか、警察への通報も手かと思えます。また、交番に連絡しておいて、見かけたら駆けつけてもらうようにしておくというの、地域で取り組める対策だと思えます。

町長から

・自主防災組織について。災害において、行政がお手伝いできる部分は決まっている。地域のことは、地域でお世話いただかなければ、今回のような大震災には対応できない。ぜひ、地区で防災組織を立ち上げてほしい。

・農地水の制度については、農家の皆さんに使い勝手の良い制度であると感じていただいている。農水省でもそのことを認識しているので、形を変えながら継続されていくと期待している。

・多くの鳥獣被害が起きている。これは、人と動物との知恵比べだと思う。長岡には、かなりニホンジカが来ているようだ。今後もどのように対応していくか、動物との共生も考えながら検討していきたい。

・中央駅前が暗いという話について。商業エリアなので、商店街を作っていきたい。オープンしたばかりのフットボールセンターには、本当にたくさんの人々が訪れている。現状としては、弁当が十分に供給できない状況であるので、これから、商業が発展していくのではないかと思う。商店街を形成するエリアとして今後、考えていきたい。

・道路の補修について。財政と見合わせながらやっていかなければならない。今年度完了した日詰駅前開発には、これまで30億円を投下してきた。今後、遅らせてきた部分については、取り返しをつけていなくてはと思っている。

・長岡夢プランについて。財政と相談しながら、継続して事業ができるように考えていきたい。また、徐々に事業を自分たちのものにして、後世につないでいけるようにしていきたい。

・長岡小学校の耐震工事について。入札が終わったら、地域での説明を行う予定。地域の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

・本日は、夜分遅くまでありがとうございました。心から感謝申し上げます。

平成23年度 まちづくり座談会（赤沢地区）

会場 赤沢公民館

日時 7月27日（水）午後7時～9時

参加者 18人

役場出席者 14人(町長、教育長、生活部長、産業部長、教育部長、下水道課長、総務課長、農業委員会事務局長、企画課長、防災室長、企画課職員4人)

質 疑 応 答

=====

防災組織作りについて。消防団がほかの地区で活動を行っているときに何か起きたら、地区でどのように動くのか。そのようなことも含めて、考えていきたい。どこから始めれば良いのか、どのように動けば良いのかヒントがほしい。

【総務課長】自主防災組織づくりは、祭りなどの行事の集まりの際に防災について話し合いをする時間をつくるなど、気軽に始めてほしいと思います。

どのような事に取り組めばよいのかということですが、例えば、災害時に一人では逃げられないお年寄りがどこにいるのかを把握したり、大地震が来た時に土砂災害が起こりうる場所を確認したりするなど、足下を見つめるような話し合いを行ってほしいと思います。また、若い人たちが働きに出ている平日の日中に災害が起きた場合にはどうするかも話し合っしてほしいと思います。

このことについては、以前に2回の説明会を行い、3.11の震災後には、地区の要望で、消防署の人を呼んでAEDの講習会を行ったり、役場の防災専門嘱託員を交えた相談会を行ったりもしています。

実際に災害が起こった場合、消防署や消防団が駆けつける前の対応は、地域の方々が行動しなければなりません。少しでも減災するために、地域で「やれること探し」を試みてほしいと思います。まずは、地域のみなさんで集まって打ち合わせを試みることをお勧めいたします。あまり背伸びせずにはじめてみてください。

星山～船久保地区に広がる県道25号線に、歩道がなく困っている。ダンプカーなども通るので、歩く人や自転車の方が通るには大変だと思う。県にお願いしてほしい。

【企画課長】 土木課にお伝えします。

その後の経過（土木課）

県道25号線の歩道設置につきましては、毎年、町の要望として県にお願いしております。今後も引き続き、強く要望をまいります。

396号線に横断歩道を作してほしい。

【企画課長】 担当課にお伝えします。

その後の経過（総務課）

交通安全施設の改善要望として、県の公安委員会に対して要望していきたいと思いますので、設置したい場所や要望内容を総務課消防室までお知らせ願います。現地確認や設置条件を警察署や道路施設管理者らと行った上で、上申いたします。

また、地域の現状も関係するものですので、地元の交通安全協会にご相談いただくこともおすすめいたします。

松くい虫が、船久保まで被害を及ぼしている。山火事も起こる地域であり、このままでは危険である。なんとか食い止める方法はないものか。

【産業部長】松くい虫は、現在、盛岡・矢巾にまで広がっています。昨年、1千万円を投入して対策をとってきましたが、止められませんでした。これまでは、感染した木を切り倒す方法をとってきており、その周囲の木もすでに感染している確率が非常に高いため、県に周囲の伐採を提案しましたが、却下されました。ほかの動植物への影響があるため、殺虫剤をまくことも、県の許可が下りません。

また、枯れた木々をそのままにしておくと、山火事になる可能性があり危険です。倒れた木の対策としては、現在、間伐した木材を森から運び出す活動に参加した人に、エコbeeクーポン券を支給しています。

早め早めの対策が必要なのではないか。乾燥して山火事がおこるのではないかといつも心配している。感染した木の周りにある木々も伐採すれば防げるのではないか。

【産業部長】これまでの対策では、主に感染が確認できた木を伐採してきましたが、半径50メートル以内の木々も感染している可能性が非常に高いので、一昨年、それらを伐採する条例をつくりました。しかし、感染した木の周囲の山には所有者がおり、伐採するために許可をとらなくてはいけないのですが、実際には、まだ病気にかかっている様子が見られないため、なかなか許可がおりないのが現状です。

松くい虫を食い止めるために、消防団をみんな集めて、作想的に山火事にしてみてもどうか。

【企画課長】ご提言として受け止めます。

松くい虫の原因は何なのか。温暖化なのか。また、松くい虫の天敵となる鳥などはいないのか。広い範囲での知識を得るための学習会などをひらいてほしい。また、松くい虫被害にあっている木を見つけた時には、どこに知らせればよいのか、一人一人が気付いて行動できるように、体制づくりも必要であると思う。

3月11日の震災後の余震による被害が、公民館などにある。避難所として大丈夫なのか、安全性を調べてほしい。また、自分たちで地域の避難マップをつくる必要性があると思う。一人暮らしの人をチェックして、地区の中でカバーしていけるようにしたいと思う。

さらに、日中自宅にいる女性たちの力を見直して、組織作りを見直していくことも必要かと思う。

【産業部長】 松くい虫の正体は、カミキリを媒介としている「センチウ」です。県の沿岸部にはまだ松くい虫被害が出ていないことや、3年前の猛暑後に松くい虫が増えていくことから、温暖化が原因なのではないかと考えられます。今後、広報などで皆さんに知らせていきたいと思います。

【教育部長】 3月11日の震災における、町内公共施設の被害では、総合体育館が一番大きな被害で、天井の板が複数落下しました。S56年より前の建築基準法で作られた建築物はチェックすること、という指示が国から出ているため、現在、学校を中心に調査を進めています。赤沢公民館については、S55年築の建物であることから、H24年に調査する予定です。

今年進めていく工事の予定は、長岡小学校の屋内体育館、二中の校舎、一中の西校舎、水分小学校などがあげられます。

【総務課長】 自主防災組織の会議の際に、地元マップづくりについても提案してみたいと思います。

鳥獣被害について。車とクマがぶつかったということや、水分でクマに襲われた情報がある。「河東のクマは温厚」などといわれているが、やはり誰が来ても心配ないようにしたいと思っている。鉄砲を持っている人も少なくなっている。クマの被害防止について、どのように考えていますか。

【産業部長】 今年の人的被害は2回目であります。クマの出没と被害数は増えています。現在、猟銃を持つ猟友会の高齢化が問題になってきていますが、鳥獣被害防止計画を策定し、農作物被害の減少につながるよう、電柵設置などの取り組みを広げていきたいと思えます。

農作業を、雇っている人にやってもらっているが「クマやシカが出るので怖くて行けない」などと言われることもある。これも風評被害だと思う。目に見える対策をしてほしい。

クマはブドウの実の先端など、おいしいところだけを食べていく。危険だし、農作物被害でもある。対策を考えてほしい。

リンゴ畑にはカモシカが来るが、最近はニホンジカが来ている。リンゴの実だけではなく、太い幹までも食べる。昨年までは来ていなかったが、今年は来ている。

先日、水道事業の説明があった。水道が通っていないある地域において、新しく水道を作ろうとすると、1件あたりの負担が300万と聞いた。水道が無ければ、若い人も戻って

こない。地域活性化の面で良くないと思う。簡単なことではないと思うが、平等性という点からもっと考えてほしい。

【農業委員会事務局長（前水道事業所長）】地域の共同負担金で、負担が30万円にまで減ることは確かです。しかしながら、紫野のあたりになると、どちらの管から引っ張ったらよいのかということや水源のことも問題になります。そこで、みんなでさまざまなことを話し合い、水道広域化をすると2/3の補助が入るということがあるので、それを進めながら問題を解消したいと考えています。

郷土芸能について、継承していく国の方針が出ており、私は、郷土芸能の指導に小学校に行っている。しかし、小学校の先生の中には、自分も覚えて子どもたちに教えるという気がない先生がいる。ボランティアの私たちの前で「私は郷土芸能が嫌いだ」とはっきり言った。そのような先生がいることについて、教育長はどのように考えているか。

【教育長】私はH12に教育長になり、各地域の伝統芸能を大切にしてほしいとお願いしてきました。それでも、先生たちはずっと紫波町にいるわけではなく、趣味がある人や経験のない人など様々な先生がいます。全ての先生がやる気があれば良いことだが、向かない人もいるかもしれない。地域の方々ができるだけ声をかけてあげて、転出後に「紫波町にいて良かった」と思ってもらえるようにしたいと思っています。よろしく願いいたします。

現在の小学生の英語教育について教えてほしい。

【教育長】町内では、文部科学省の指定を受けて小学3年生から英語活動に取り組んできましたが、今年から学習指導要領が改訂になり、小学5・6年生が外国語活動として英語の勉強に取り組んでいます。赤沢小学校で英語を学んで、二中に行くとオーストラリアやアメリカに行った子どももいるということです。校長先生から話を聞くと、英語を勉強することで子どもの視野が広がることは確かであると感じています。

赤沢は協力のある地域であります。地域の人々で教育振興運動を広めて参加していただきたいと思っている。子ども達の教育について、地域の皆さんと一緒に考えていけたら良いと思う。

【教育長】紫波町は、県内で一番家庭学習の時間が少ないという調査結果です。家庭学習への協力もお願いしたいと思います。

町長から

・自主防災組織について。今回の震災からもわかるように、災害発生時には行政の果たす役割よりも地域の皆さんが果たす役割の方が大きいのではないかと思う。地域ごとでどのように対応するかということがとても大切になってくると思うので、どうぞご協力お願い

いたします。

・マツクイムシについては、なかなか打つ手がないのが現状です。何度も県に重点的に対策するように要望を出していたのですが、ついに盛岡まで行ってしまった。今後もあきらめずに、対応していかなくてはならないと思っている。間伐材をトラック1トン分山から運ぶと、エコbeeクーポン券5000円分が給付になる新しい事業もあるので、地域のご理解とご協力をいただきたい。

・昨日の長岡での座談会でも、鳥獣被害（クマ、タヌキ、ニホンジカ）があった。知恵の出し合いで駆除していくしかないのではないかと思う。「河東のクマは温厚だ」などと油断せず、用心していただきたい。町としても本格的に対策を考えていかなくてはならないと思う。

・水道については、町で負担してできるだけ安く加入いただける方法を考えている。全員に加入してもらえるように、ご理解とご協力をお願いしたい。

・暑い中、夜分遅くまでたくさんのご意見を出していただき、ありがとうございました。

平成23年度 まちづくり座談会（佐比内地区）

会場 佐比内公民館

日時 7月29日（金）午後7時～9時

参加者 16人

役場出席者 12人(町長、教育長、経営支援部長、福祉課長、環境課長、水道事業所長、総務課長、学務課長、企画課長、防災室長、企画課職員2人)

質 疑 応 答

=====

災害時に企業との協力体制が町にあるのか。

【防災室長】19の会社や団体と災害協定を結んでいます。

【総務課長】3.11の際には、震災発生日に6社から発電機を貸していただきました。

【学務課長（前下水道課公営企業対策主幹）】下水道ポンプ専用としても、昨年から、発電機を借りる災害協定を結んでいます。停電した場合、そのままにしてしまうとあふれてしまうためです。今回の震災では、トラックと発電機を3日間お借りして対応にあたりました。

民生委員の方々において、「誰が誰を援護する」というのは決まっているか。

【防災室長】今のところ「誰が誰を」というのは決まっていません。

【福祉課長】福祉課では、要援護者の名簿を作成しています。本人が自主的に要望するもので、支援者の名前を書き込む欄もあります。

【総務課長】実際の要援護者名簿の活用について。名簿は、民生委員、行政区長、消防団各分団、消防署などに情報提供しています。3.11の際には、民生委員、消防団員の方々にお願ひし、翌日までには全員の無事を確認することができました。1対1の助け合いも必要だが、組織ごとの対応もしていただいています。

要援護者は、どのような方々がなっているのか。どのあたりまで、把握しているものなのか。

【福祉課長】要援護者名簿は、あくまで自分の意思での登録。知られたくない人もいるようなので、すべての人が登録されているわけではありません。徐々に声かけが行われていけばと思っています。

すべての人に出してもらおう方法はないか。

【福祉課長】さまざまな個人の状況があるので、デリケートな問題でもあります。今後、皆さんと一緒に考えていきたい問題です。

自主防災組織にも、要援護者名簿を公開してもらえないだろうか。

【福祉課長】申請書を出していただければ、提供が可能です。

【総務課長】要援護者名簿を作成した時点では、このような震災は起こっていませんでした。3.11 が起こった今では、また違った考え方が出てくると思います。できるだけ、多くの人に登録を了解していただけるようにしていきたいです。

計画停電について。今回の震災で、停電になると車で動けなくなるということを身に感じてみた。すこやか号などもあるが、何か公共交通での対応は考えられないのか。

【企画課長】公共交通としては、すこやか号が唯一の交通手段となります。また、福祉タクシーというものも現在あります。

【福祉課長】

障害者手帳をお持ちの方が町内タクシーを利用する場合1回あたり基本料金を助成する福祉タクシー券を発行する、という制度があります。福祉タクシーは、月2回のみ利用ですが、今回の震災時には、ガソリンが無くて通院し透析できない方にさらに追加で福祉タクシー券を発行いたしました。

ごみの収集場所が2カ所しかない。遠い人やお年寄りにとっては、運ぶのも大変。町産材を使って、資源ごみの保管庫を作ってほしい。

【環境課長】町産木材を使った資源ごみの保管庫を作るのには約30万円がかかるのですが、町も補助金を出しています。あらかじめ申し込みの上、ぜひご利用下さい。

最近ゲリラ豪雨が多いのですが、佐比内にもため池が3つあり、決壊した時には大変になるのではないかと心配している。今日も注意報が出ていた。もし決壊した場合には、佐比内の自主防災組織で、町から指示がきて対応したりするのか。この前、少し雨が降っただけでも公民館の周りが水浸しになった。何か安心できるような対策があるのか。

【総務課長】最近、気象庁から敏感に注意報や警報が出されています。雨も、ゲリラ的、局所的なものが増えています。

ため池については、民間などのものとも考えられますが、できれば日々の点検などを行い、危険だと感じる部分については農林課を通じてご連絡いただきたいと思います。

また、豪雨や洪水の際に危険がある場所については、防災マップで示していますが、マップは県のデータに基づいて作られているものなので、実際に地域の皆さんが危険だと感じる場所があれば、情報をいただきたいです。

自主防災の始まりは、やはり足下を見つめることだと思います。自分が住んでいる場所について、皆さんがお互いに情報交換をして、意識することが大切だと思いますので、ご協力よろしく願いいたします。

牛の頭のほうから がキレイになりつつあるが、まだ残っている部分がある。残っている部分が水害地帯。どういう判断で防災マップを作っているのかわからないが、川の中が荒れ放題で危ない。

【企画課長】 情報提供として、担当課にお伝えします。

町長にお願いしたいことが、3つある。雇用、地産地消、首長日程について。

少子高齢化に伴い、佐比内にも若い人や子どもが少なくなっている。町内に若い人たちが働く場所がない。なんとか町内で雇用の場を創出できないか。若い人たちは、働きながら家族と一緒に暮らし、自分で家を持つという、人並みの暮らしをしたいと夢見ている。雇用の場がなければ、若い人は外にでていき、残されたのは年寄りだけ。親が年をとって倒れたりして、農業を継ごうと戻ってこようとしても「食えないから戻ってくるな」と止めなければならない。働く場所がなく、生活できないため、若者は地元に戻りたいけど戻れないというのが現状である。なんとか、若い人が定住して活気ある町になるような仕組みを考えてもらえないか。

町の中心部ではオガール計画などのにぎわい創出が進められているが、周辺部からでは行くのにもガソリンがかかる。ありがたさを感じないと言ったら失礼かと思うが、いまいちピンとこない。町の基幹産業は農業だと思うが、農業で生計を立てて元気な人がどれくらいいるでしょうか。佐比内の場合、認定農業者の人、農協の組合長さんなどがいるが、そのくらいじゃないでしょうか。町内に働く場所がほしい。農業だけでは、飯が食えないし住宅ローンも返せない。町長のリーダーシップで何とかできないか。

地産地消ということで、ブドウを使った自醸ワインを作っているが、作っているのは特定の人で、ブドウを作っている一般の人は出していない。少なくとも私たちにとっては、自醸ワインというのはエーデルワインのこと。ブドウは、余すことなく使っていただけるので、とてもありがたい作物である。紫波町でワインを作っているが、私たちは大迫に出荷しなくてはならない。なので、自園自醸ワイン紫波が「紫波町のワイン」と言われてもピンとこない。町のブドウをすべて買い上げて、ワインを造るという保障はないのでしょうか。

岩手日報に出ている首長日程の欄には「庁内用務」の四文字が多い。ほかの首長の日程には、企業訪問や東京出張など、自分で歩いているようだ。藤原町長にも、もっと歩いてほしいと思う。どのように記事が掲載されているのかわからないが、もっと働いているように書いた方がよい。もっと動いて、元気な紫波町を作りたい。

【企画課長】 町長総括で回答します。

松くい虫被害が進んでいる。先端を食い止めるという考えで対策してきたと思うが、盛岡市以外に、町内にも先端がある。防除を行うならば佐比内でも行ってほしい。松くい虫は、日本に入って 100 年の歴史があるので、これも自然がなせる技で、防除は無駄

な抵抗なのかなとも思うのですが、現在、町ではどのように考えてどのような対策を行っているのかお聞きしたい。

【環境課長】松くい虫は薬剤では対応できないということで、被害木を1本ずつ切る対策を行ってきました。今年度は約340立方メートル、579万円の予算で対応しています。半径70メートルの単位で帯状に切っていく方式では、団地型75ヘクタール、2500万円ほどの事業を計画しています。

彦部小学校の裏のマツは壊滅状態。以前はなかったが、佐比内でも目立ってきた。本当に防げるとしてやっているのか。経験者はどのように見ているのか。科学的な見解や、最新の情報を教えていただきたい。

【町長】町内の松くい虫被害は、昨年の猛暑や3年ほど前の大雪以降に増えている。松くい虫が、石鳥谷から紫波に入ってきた7～8年ほど前から、県には何度も予算を積んでほしいとお願いしてきた。例えば、被害が1本に出たら、周囲60メートルにあるマツを全部切ってしまうなどの方法もあるのですが、町ではとても対応できないので、県や国にお願いしてきました。町費で行えるのは、まず枯れた木は1年後には倒れてしまいますので、これを伐採することです。それを、県民税やエコbeeクーポン券などの取り組みでなんとかできないかと思っています。また、山主の了解を得なければならないという問題もあります。木材の利用方法についてもさまざま考えているところです。なかなか良い案が出てこないのが松くい虫問題ですので、今後も農林課と話し合っていきたいと思います。

土木費を見ると、中央駅前には10億くらいかかっているが、河東地区にはどの程度の予算が入る予定なのか。町道もでこぼこしていて、歩道と車道の段差がなくなっていて、歩道もでこぼこ、水たまりもできる、子どもたちにとって、とても危険。一級町道なので、議会にお願いすればよいのか。

【企画課長】予算の額の詳細につきましては、頭に入っていないので後でお伝えしたいと思いますが、H23年度における町道整備の予算はあまり多くないのが実情です。来年度以降はいくらか良くなる予定です。歳入の状態に合わせながら、ご希望に添えるように努めたいと思います。土木課にもお伝えします。

国体の自転車競技は、佐比内までコースが来るのでしょうか。道路のひび割れが目立つが、そのままの状態で行うのか。また、両サイドの草刈りも気になっている。

【学務課長】これまでコースは、観光ブドウ園を回りながらのコースを使ってきた。もう一方では、周回のコースをもう少し長く取り、赤沢や長岡まで延ばすことも検討している。どちらにおいても、道路の確保、安全の確保が必要です。持ち帰ってお伝えします。

企業の誘致を行えば、税収が増えると思う。ソフトウェア会社を誘致してみてもどうか。

【企画課長】 要望として担当課（商工観光課）に伝えます。

放射能問題について。宮城県で肉牛が出荷停止になった。次は岩手なのか。ブドウや水稲も、実際に秋になってから、「収穫待った」という状態にならないようにしてほしい。目に見えないものなので、検査の機械が必要だが、機械もない。私たちが安心できるように、町でも検査などを考えているのか。

【環境課長】7月26日に、県の職員が来て、町内2カ所（役場駐車場と赤沢児童館）の測定を行っていった。結果は、全く平常時と変わらない数字であるということでした。教育委員会では今後、各校の空中、土壌、プールの調査を予定している。今後、町で農作物も測れる機器を購入予定です。

町長から

・自主防災組織について。活動していただいているところに敬意を表したい。3.11に際しましても、すみやかな行動や情報提供など感謝いたしております。災害時に役場組織で完結できることは少なく、やはり住民の皆さまからの情報が頼りです。住宅街ではとなりの家の人も知らないということがあったり、個人情報の問題などもあったりしますが、3.11後には関心が高まり協力体制が整っていくことを期待します。

・ゲリラ豪雨は、いつどこで起こるか分らないです。今後、天気予報もスポットで分かるシステムつくっていかなければならないと思う。地域ごとに対応を考えなければと思います。

・雇用の問題。「町は企業誘致が弱い」と言われます。盛岡～北上間の通勤範囲。町の企業を訪問してみると、町内の人が入っていないのが実情です。よく言われるのが「募集を行うと、町外から入ってくるのが現状です。」先般、農林公社でも職員募集をしたが、町内出身者は半分ほどしか応募されていませんでした。矢巾や花巻から採用している状況。果たして、町に企業を誘致して、集まるのかという問題。単独での誘致は難しいと思う。昨年、盛岡広域8市町村で、まとめて1カ所で誘致活動しています。特に、ソフトウェア・食品関係が良いのではないかと思います。特に岩手は食品関係を重点的に行うべきだと言われている。三陸の海産物や野菜は、ほかには無い、いいものがある。桑茶なども開発されています。このようにして、町も頑張っています。

矢巾は単独で広い用地があるので頑張っているが、昨年は一社も誘致できませんでした。例えば2ヘクタールの用地がほしいと言われれば、町で用意して、5年間を減免とする制度を採用しているが、それだけでは企業は入って来ない。やはり企業側もシビアになってきているのだと思います。腹を決めて取り組まなければならない。最近話が出ているのは、震災関係で新たに内陸に入ってきて来ようとしている企業もあること。町内企業も必要だが、盛岡-北上間にも大いに選択の幅があるので考えてほしい。

・自園自醸ワイン紫波について。ワイナリーに入れているブドウは、JA契約農家など合わ

せて約 70 トンを町内から買って仕入れているものです。ワイン専用品種のみで醸造しておりますので、町のブドウをすべて買い上げることはできませんが、ブドウジュースが大変好評ですので、こちらについては、紫波フルーツパークで町内産ブドウを買い取って生産していきたいと思っています。

・地産地消について。町の学校給食は、できるだけ町内産の食材で作りたいということで、給食生産組合に加入している農家から食材を仕入れて作っています。現在、学校給食は 47% の自給率です。今年は、町内でジャガイモもたくさん作ってもらっているので、今年はおそらく 60% 以上の自給率になると思う。

・首長の「今日の日程」について。他町は 4 つも入れているところがあるが、私は秘書に「一つしか入れるな」と言っています。庁内で会議がある時は「庁内用務」とするようにと。あまりそのようなものに左右されずに、仕事をしっかりしていればよいというのが私の性分なので、ご理解いただきたいと思います。

・松くい虫については、本当に困っています。県には何度も言っているが、なかなか思わしくない状況。後始末は自分たちの町でやらなくてはならない。何よりも、感染した松が倒れる前に、処理を早く行いたいです。

・国体ロードレース。災害が発生したことによって、国体やるか否かという議論もあるようだが、私は復興の証としてやるべきだと思います。道路が悪いようであれば、町で補修しなければならないと思います。地域の人には、草刈りやごみ拾いなどご迷惑をおかけしますが、今後ともご協力よろしく願いいたします。

・ソフトウェアはこれからの産業。滝沢や盛岡が一生懸命にやっている。これからの主力産業なので、誘致を進めたい。

・放射線について。牛が風評被害で大変です。風評被害を無くせるように、全頭調査や補償について国と県に農協と一緒に要望する予定。日々情勢が変わっているようなので、見極めながら、強く国、県に対して要望しなければならないと思っている。

・たくさんのご意見を賜りまして、ありがとうございました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成23年度 まちづくり座談会（赤石地区）

会場 赤石公民館

日時 7月31日（日）午前9時30分～正午

参加者 27人

役場出席者 12人(町長、教育長、建設部長、経営支援部長、長寿健康課長、商工観光課長、総務課長、農業委員会事務局長、企画課長、防災室長、企画課職員2人)

質 疑 応 答

=====

一般家庭に避難して来ている人を、交流のために、ゲーム大会に招待したいが、誰がどこにいるのかを知ることができるのか。

【総務課長】役場に届けていない人や、公表してほしくない人という人もいます。お知らせしたい情報については、役場に情報をいただいて、役場から直接案内するようにしたいと思います。

アパート入居者の情報を教えてくれない業者がいる問題。地域の連帯感に関わる問題でもあるし、業者への指導が必要ではないか。

【総務課長】個人情報に対する過度な反応であると認識しています。町に住民登録をすれば、区長さんに世帯名簿をお渡ししていますが、未登録者については把握しきれていません。国勢調査の際は、住所を紫波町に置いてない人も調査対象になるので、可能な限り不動産屋に行って聞いています。また、町に住まわれている人については、極力住民登録をするようお願いもしていますが、中にはどうしても事情があって住所を動かしていない人もいらっしゃると思っています。地域づくりのためにも、住民情報の把握に努めてまいりたいと思いますので、これからもご協力よろしくお願いいたします。

原発問題。これに影響する農家や畜産農家などが非常に困っている。町としての対応はどのようにするのか、町民に知らせてほしい。農家や販売業者、家庭栽培など。放射線の調査、町民に知らせる。3.11以降、近所の遮断機がずっと鳴っている。個人ではJRに言うことができないので、町から言ってもらえればありがたい。紫波町は農業に対して、考えを深くしている町であると思う。米の値段、震災の前後で変わっているが、把握していたか。

【企画課長】町内の農作物の放射線量は検出されませんでした。今後の予定としては、まず町内各小中学校のプールと校庭の土、大気の線量を測定し、結果が分かり次第公表する予定。その後も定期的に測定をしていきたいと思っています。また、町でも独自に測定器を購入したいと考えています。

【防災室長】遮断機については、これまで全く情報が届いてきておりませんでした。

こちらから JR に連絡して対応をお願いしたいと思います。

遮断機に関連してですが、先日赤石小学校の会合で、高田校長が「小学生がいたずらして鳴らしていたという事実があった。JR には話して勘弁してもらった」との話をしていました。

【総務課長】 震災後には、スーパーなどの在庫確認をして歩いたが、価格までは確認していませんでした。中には、米の備蓄が切れた商店もあったので、岩手県総合防災室に電話して、国の方に、米をはき出してもらおうよう要請もしました。

防災マップなのですが、大きさが A4 × 8 倍の大きさと、我が家では、壁に貼っている状態。また、内容も非常に多項目にわたっている。住民は熟知しているのか。ダイジェスト版のように、もっと分かりやすくできないか。 自助、互助、共助の話があったが、アメリカにあるコロラド州のグランドキャニオンでは、自分の安全は自分で守るという意識がある。町でももっと、自分を守るという意識を啓蒙することをお勧めします。 今月、陸前高田市の広田地区では、集団移動を決めたそうだ。結束力というのは、特段普段訓練しているわけではなく、いつも運動会などで顔を合わせている、顔が見える、というところから来ているようだ。紫波町もこのようになってほしい。 放射能のこと。1 のことを 10 に騒ぐなど言いたい。もっと冷静さ、許容と寛容があってよいのではないか。

【総務課長】 防災マップは、5 年に 1 回ほどの頻度で出しています。情報がたくさん入ってしまったということは、そのとおりです。今後の課題としたいと思います。また、今回のマップは、大雨洪水の際の避難マップであり、地震災害のことについては入っていません。地域のことは地域の人が一番よく知っていると思いますので、マップを作っていく際にも、地域の皆さまのご意見を取り入れながら作っていきたいと思います。

自助・共助について。地域の防災活動については、3.11 震災前に、2 回打合会を開催しました。新しく組織を作るのではなくて、今ある町内会の活動を増やすような形で「できること探し」を始めてみてほしいと提案しています。実際に災害が起こったときに、減災できるよう、地域ごとに取り組みを行ってほしいと思います。

【企画課長】 他の点については、ご要望として受け止めます。

震災の起こった 3 月 11 日に、防犯座談会を開く予定だったため、念のために公民館に来たが、停電のため、避難者がいたのにもかかわらずとても寒かった。公共施設への発電機の常時設置はできないものか。

【総務課長】 レンタル発電機については、災害協定を結んでいたニッケンとアクティオに加え、県内の建設業者からも借りました。3.11 の際には、これで必要な分の発電機を確保できたと考えています。ただ、常時の配備につきましては、経費がかかることですので、今回の経験を生かして、慎重に検討したいと思います。

踏切の東側に、アスファルトのふくらみが2カ所くらいあり、車がジャンプする状態になって非常に危険。削り取って平らにすることはできないか。また、道は広いが踏切が狭くなっている。タンクローリーがぎりぎりを通っており、子どもたちの通学に危険だと思う。踏切の拡幅は難しいのだろうか。町とJRで協議をお願いしたい。線路については、日詰駅北側はガードの下を通り、紫波高にいくと、陸橋で越える形になり、北日詰のところだけ踏切になっている。大雨の際には、ガードの下には水たまりができるため、踏切の必要性はあると思う。

【建設部長】道路のでこぼこについて。踏切の中や踏切から15メートルの場所については、JRとの協議が必要な場所になるので、JRに話を伝えたいと思います。国道沿いで立体交差になっているところが町には5カ所くらいあります。雨水などによる水害発生時には、紫波高の上がより安全な通り道となります。現在、JRでは踏切の上を車が通る形にあまりしたくない様子で、拡張は難しいかもしれません。

5メートルくらいの水路がある部分に、ガードレールを作って、自転車が通れる道路を作ってほしい。(?)

【企画課長】担当課(土木課)にご提言をお伝えします。

自助共助は、地域に暮らす人たちの意識だと思う。日詰駅から歩いて、ひづめ館地区の案内をする会を作りたい。白い標柱を何本か建てることはできないか。赤石小学校の北側、五郎沼の南、経塚の跡、薬師神社の東側など。「ひづめ館」の漢字表記について。「比爪」か「樋爪」、どちらかに統一してほしい。また、町指定のひづめ館関連史跡に五郎沼が含まれていないので、史跡に含めてほしい。赤石小学校の西側の下水工事をする際には遺跡調査も。

【教育長】標記について。個人的な考えとしても、標柱は統一していかなくてならないと思っています。専門家や県と協議しながら、誤りがないように、慎重に標記を決めていくことが必要であると思います。そしてまた、樋爪氏の顕彰がここだけで終わることのないように、町民、東北、全国に啓蒙していくためにも取り組んで行かなくてはならないと思います。

また、発掘調査については、やはりお金が必要です。平泉との関連が県に認められるよう、町としても生涯学習課を中心として働きかけていきたいです。

遺跡の調査費だが、県の予算が、震災の影響で無くなってしまったようだ。また、漢字表記については、町の観光事業計画で使っている文字に統一すれば良いのではないかと考えている。

【企画課長】ご提言として受け止めます。

日詰駅前開発の成果と課題について。5.8 ヘクターの中では、未着工の工事がある。開発地と周囲とがアンバランスに見えるが、町ではどのように見ているのか。中央駅前の整備が進められているが、古館駅前は雑然としている。古館駅前の整備の見直し構想はあるのか、どのように進められているのか。

赤石地区には、文化財がたくさんある。町の文化財をどのように保管、維持管理しているのか。展示はどのようにしていくのか。資料館などの整備の構想はあるのか、ないのか。資料館がないのは、県内で紫波町だけなので、整備を急ぐ必要がある。中央駅前のフットボールセンターについて。運動公園の各グラウンドでは、公式試合ができない。施設の貧弱化や、老朽化が原因と思う。これからどのように整備していくのか、計画があれば教えてほしい。

【建設部長】 日詰駅前開発は、町が中心ではなく、町と地域が一緒になって駅前商店街のあり方を考えていきたいと思っています。日詰駅から続く県道の整備については、これからも県に要望してまいります。雇用促進住宅から続く道路の拡幅も進める予定です。日詰駅につながる国道4号の右折レーンは、今後も国土交通省に働きかけていきます。古館駅は、自動車の出入りの安全確保が大事と考えていますので、町道を利用して大きなロータリーのように回れるようにしたいと考えています。

【企画課長】 は、町長総括で回答します。

現在赤石まちづくり推進協議会では、滝浦商店をお借りし、パンなどを販売して、お店を維持しようとしている。お話にあったように、駅前開発が行われたことによって、商店街がなくなってしまったが、お店はなんとか存続させたいと思っている。店主の滝浦良子さんは87歳で、たばことクリーニングで頑張ってきた人。平泉の世界遺産登録に伴い、日詰駅にも町外から五郎沼などを見に来ている人がいる。五郎沼案内やパンフレットの配布など、町の大切な場所になってくる場所だと思う。なんとか、町で存続できるようにしてほしい。

アメリカシロヒトリが増えてきている。対応として、町では農薬散布して駆除するのか、それとも機器を貸出するのか。

【商工観光課長】 震災の後で県の動きがありました。後で直接、お話したいと思います。環境課で、噴射機の貸し出しを行っています。

庁舎移転について。町民のユニセクサスは得られたのか。鉄筋コンクリートは50年以降がピークで、ゆっくり耐震性が落ちてくる。庁舎はあと20年は持つと思う。お金がないのであれば、子どもたちのために残してほしい。

まちづくり活動にお金が必要ですが、助成金制度があまりない。町にも、そのような活動の支援をしていただきたい。

町長から

・セシウムについて。紫波町には、181軒の牛を飼っている農家がある。その内、町外からエサを仕入れているは農家3件あった。現在、追跡調査中です。安全性について分かったことについては、いずれ皆さんに公表していきます。補償などについては、今後、国や県に要望をしていく。学校におけるセシウムの調査の結果は、近々公表予定。

・米の値上がり。H23年、米の消費活動が進んでおり、価格は値上がり傾向にあるようだ。

・日本の結の精神。「自分の身は自分で守る」ということは、町としても、地域の安全を守る、住民と町が一緒になって守っていくという意識で、逐次発信していきたい。

・樋爪館について。平泉の世界遺産登録があった。後世に残せる名称になるように、きちんと決めていきたい。その際はぜひ協力いただきたい。

・文化財の保管について。将来、役場庁舎の移転を行った時、現在の教育委員会の場所が、使用可能スペースになる。耐震補強工事を行い、中央公民館内に文化財の保管を行いたいと考えている。

・総合体育館と運動公園のグラウンドについて。本年度中に、体育館アリーナの観覧席や壁を補修する予定。野球場の補修にはかなりの予算がかかりますが、老朽化しているので改修したいと考えている。照明やスタンド、トイレなど、これから改修計画を策定していく予定。

・駅前開発について。町が中心になってではなく、町と地域と人々とが一緒になって駅前商店街のあり方を考えていきたいと思う。

・庁舎が今後20年使えるのではないかとのご意見をいただいた。色々な考えを持っている人がいるので、ご意見をいただきながら、どうするのが一番良いのかを考え、庁舎建設について考えていきたい。これから、議会と協議の予定。

・財政について。町債が減ってきている。庁舎を建てるのには、お金は27億かかるが、現在「公民連携」という形で地域開発を行っており、後世の子どもたちに大きく借金を残すということはないと思う。

・古館駅前地域の開発もいずれ、着手していきたい。まずは、ロータリーづくりから。

平成23年度 まちづくり座談会（日詰地区）

会場 保健センター

日時 7月31日（日）午後1時30分～4時

参加者 32人

役場出席者 12人（町長、教育長、産業部長、経営支援部長、長寿健康課長、都市計画課長、税務課長、企画課長、防災室長、企画課職員3人）

質 疑 応 答

=====

紫波町には線量計があるのか、測定したのか。安全なのか。 自主防災組織には、日詰にどれくらいあるものなのか。

【産業部長】 現在、線量計が全国的に不足しており、手に入らない状況です。ごく簡易なものは、まもなく納品予定ですが、大がかりなものは、9～10月くらいに届く予定です。盛岡保健所でも、まもなく納品予定。もうしばらくお待ちいただきたいです。

また、県で測定した農作物については、きゅうりが基準値以内でした。また、農地以外にも、役場前と赤沢児童館で計測し、通常値が計測されました。

【防災室長】 自主防災組織は、日詰に3つある。新たに組織を作るといって、大変なイメージがありますが、町内会内に防災部などを作り、できることから取り組んでほしいです。防災訓練で動きを体験し覚えていただいて、組織で役割分担を行い、組織的に動いてほしいと思います。

28日の防災訓練に防災組織として参加するため、18日に独自会議を開きますが、職員は来られますか。

【防災室長】お邪魔いたします。

盛岡タイムスに「堆肥出荷ストップ」の記事が載っていた。エコ3センターは、どのように対応するのか。3.11の際に一番困ったのが、停電で情報がないということだった。将来的に、自家発電できるようにしてほしい。

【産業部長】エコ3センターは、すでに出荷停止にしています。もう出荷してしまっているものは回収予定です。ただし、それは牛ふんのみで、鳥や豚については大丈夫です。今後、線量調査の機械が届いたら、役場でも調査を行いたいです。

【防災室長】自家発電機については、災害協定を結んでいるアクティオとニッケンから、発電機を借り、下水道施設や役場に設置しました。優先的に発電機が来るようにはなっています。

7区は紫波橋のすぐ近く。町では水害対策についてどのように考えているか。

【防災室長】水害時には、排水をどうするか、生命を守るためにどのようにしていけば良いかを考えることが大切です。現在、下川原ポンプ場が最終工事に入っています。水害が絶対に起こらないということは、まずあり得ないこと。そのような中で、生命を守るためにどのようにしていけば良いかを考えていくことが大切だと考えています。

【建設部長】現在、下川原ポンプ場の改修工事を行っています。改修内容は、耐震性の確保、冠水時の漏電対策、古いポンプの機能回復改善です。

ポンプはお金がかかると聞いている。水害から完全に逃げるのは無理。その地区に住んでいる家は、十数件のみなのだから、みんなで立ち退きして遊水池としたら良いのではないか。

【建設部長】運動公園が調整池の役割をしています。大坪川の機能を継続できるようにしたいと考えています。

北上川の中州がどんどん大きくなっている。流れが悪いので、取れば良くなるのでは。

【企画課長】ご提言として受け止めます。

大坪川は、8区も関わっている。ひととき、水せき止めていたが、泥がたまるために取っ払った。火災の時に水をくめたが、今はない。水害も怖い、今は火災が一番怖い。何かうまく大坪川を利用する方法はないか。

消火栓は17カ所あるが、道具が少ない。ぼや騒ぎの時、元消防団員が消してくれた。誰でも使えるようにする訓練が必要。しかし、いきなり出すと、水道が濁ると言われて訓練もむやみにできない。日ごろやっておけば、いいのかなと思っている。

また、消防団員は、昼には地区にいない。対策として、今はどのようになっているのか。

【防災室長】現在の団員538人には、勤め人が多い。昼間に火事が起こった場合、役場職員が役場から出勤する体制。また、町内にいる消防団員、特にJAの職員は多いので、お願いしています。OB団員についても、検討している最中です。

【経営支援部長】日詰地区ばかりでなく、農村部でも堰などの水利がなくて困っています。消防水利について、ちゃんと真剣に考えなければと思っています。

水が汚れるので、消火栓を使わない訓練ということが行われている。水を出す訓練だけ、みんなやったことがないので、それならば、町内のどこか1カ所に、訓練用の消火栓を作ってもらえばよいと思うのだが。

【建設部長】消火栓、水を出すなというわけではありません。水道事業所立ち会いの上で、訓練したケース(古館)もあります。訓練を行う際に、事前に、消防担当や水道事業所に連絡してもらえればと思います。

地域に熱心な人がいないと、訓練もやる機会がない。そのまま災害が起きてしまうということがないように、地元での現場訓練は必要だと思う。ただ、誰がその声かけをするのが問題。意識の高いところだけやる、というのは、地域格差を生むことになる。公民館や町内会、町が声をかけあい、みんなで助け合うという町民意識を育てることが、防災には大切であると思う。

【経営支援部長】自主防災組織は「啓発はするが、強制はあまりしない」ということで進めてきました。しかし今後は、地域間での格差が生まれるということがないように、留意しながら進めていきたいと思います。

「適当に何でも良いから作れ」はだめだと思う。もし作るのであれば、大ざっぱで良いから、町で基本を作ってほしいと思う。

【経営支援部長】ご指摘のとおり「最低限これだけは必要である」ということは示さなければならぬと思いました。これから進めていきたいと思います。

オガールの子育て応援センターについて。歩けない子どもを預けるには、2階は危険なのではないか。1階の方が良いのではないか。

【公民連携主幹】1階東側入るレストランが1時間の耐火構造になっていること、また、子育て応援センターから直接つながる避難専用階段と鉄筋コンクリート棟に逃げられる階段があることから、火災には対応できる構造であると考えています。内装部分の補強や、避難方法の周知徹底については今後取り組んでいきたいです。

請願を行ったけれども、何ら変更がなかったということですか。

【公民連携主幹】細かい点に変更はありませんでした。

地震崩壊後の火災に対応できるように請願したはずですが。全く歩けない乳幼児を5人預かる場合、保育士は5人以上いるのかどうか。安全なのか、法律上の問題ではなく、モラルの問題として危惧している。

【公民連携主幹】建築基準法の考え方についてご説明いたします。まず、構造として、震度5強には耐えうる構造であり、震度6強が起こった場合には避難する間には建物が崩れないということになっています。この審査が通ることを念頭に、設計を進めてきました。

今回の件は、阪神淡路大震災の経験者からのアドバイスをいただいて出したもの。直下型の縦揺れは、認可のおりている建物でも破損が激しく起こるとのこと。請願によって何も変わらなかったのは、とても残念だ。

町が、町民の声を代弁して、オガールと交渉しないのか。見直しが必要かもしれないと言われている建築基準法を基準にして建設し、その後、もし災害があったときは町ですべて責任を取れるのか。

【経営支援部長】建物はオガール紫波株式会社が建てますが、子育て応援センターとしての活用が始まる際には、町の運営になるので、町が責任を持って対応していきます。

オガールに対して、町から設計変更の申し出は行わなかったのか聞きたい。51%出資している町が、強く言えば良いのではないか。

【経営支援部長】町としても、請願については、オガールに意見を伝えてきました。その意見については、さまざまなケースについて検討してもらい、議会に返答してきています。大きな点で言えば変更はなかったかもしれないですが、細かな点においての検討は重ね、変更などもしてきました。

町長に質問したい。行政の役割は、住民の命と財産を守ることだと思っているが、その点についてどのように考えているか。

【町長】行政の役割についてはその通りだと考えている。皆さんからの税金で、行政の役割を果たすサービスを行っている。

町長はオガール紫波株式会社に設計変更の要請は行ったのか。

【町長】その件については、オガールと当初から協議してきました。1階か2階かということですが、災害の際には、1階にしても2階にしても、窓から逃げなければならないということで、その点では同じ。最終結論として、2階でも良いのではないかということになりました。

請願書には、1階のわきに子育て応援センター用の別出入り口を作れば、災害時にも不審者侵入に対しても安全と書いたはず。その後、議員さんからは、1階は高く運営経費をとれると聞いた。採算性で子育て応援センターを2階にしたのではないか。

【経営支援部長】子育て応援センターについては、当初は1階で単独で行おうという案や、様々な案が出ました。都市部では、不審者は2階からでも入るということもあります。不審者の観点では、必ずしも1階も2階も安全とはいかない。また、母親たちの交流スペースや余暇など、総合的な使い方を考えると、安全が確保できれば2階でも良いのではないかという結論になりました。この結論は、ただ単純に、金額のことだけではありませんでした。

3.11の震災前であれば、それで良かったと思う。しかし、頻繁に地震が起こるようになった今、それで足りないのではないか。

----- この話題は中断 -----

オガールと日詰商店街について。紫波中央駅の東口の計画について。町議会だよりでは、JR東口の件について「難しい」というような回答を見たが、それで終わりなのか。

また、オガールプロジェクトでは宅地化計画が進められているようだが、将来の町の財産（公共用地）として残した方が良いのではないか。

【経営支援部長】東口から直接ホームに入ることは、無人駅では難しいので、有人駅

化を目指して JR と交渉を進める必要があります。何とか東口を作り、商店街との関連を作
っていきたいと思っています。 財政については、H10 年度に 155 億あった借金が、現在
は 100 億を切りました。今後は、実質公債比率 15 ~ 16 % 台を推移する見通しです。オ
ガールプロジェクトで、宅地として売るかどうかについては、税金やニーズなど、時間
をかけて考える必要があります。震災後、考え方が変わってきたと思うので、今後そのよ
うな点も踏まえながら考えていきたいと思っています。

東口についても、宅地化についても、引き続き検討してほしい。

職員にお願いされて、東口の用地買収に応じるように親戚を説得した。しかし、今にな
って JR が東口を認めないということは、おかしいのではないか。町は、JR の内諾を得な
いので開発を始めたのか。

【経営支援部長】住宅開発については、民間の自主的な開発のはず。

【公民連携主幹】東口については、H14 年に自由地下通路を作ることが中止になった経
緯があります。その際につくろうとしていたものは、東口から、西口の出入り口に抜けら
れる地下自由通路でありました。しかし、町から、新幹線の線路の下を通り東北本線東側
ホームに上がることのできる自由通路を作るとを申し入れましたが、JR からは構造上、
安全上難しいとの回答があり、中止になりました。JR からは、地下自由通路であれば、前
向きに検討したいという回答を得ているので、オガール開発が終わる H25 年の後に東口開
発に着手できるように交渉していきたくて考えています。

JR の安全上の問題というのは、出入り口が無人という一点が問題なのか？ H14 年まで
は、ゴーサインを出していたのか。

【公民連携主幹】安全上の問題点というのは、東口から東側ホームに直接抜けられる通
路を作ると、JR を使う人以外も JR 構内を通れるようになるため、JR として安全上の責任
が取れないということでした。

それは現時点の問題ですよ。H14 年度はどうだったのですか。

【公民連携主幹】地下自由通路であれば、JR 利用者以外は構内に入らないので、再検討
は可能ですとのこと。

最初から、JR からは地下自由通路の話しかなかったのでしょうか？なぜ、陸橋にしよう
になったのですか。

【公民連携主幹】それは以前の座談会で、ホームで具合が悪くなった人がいて「東口に
降りられるスロープがほしい」との要望があった経緯があります。

それは、一般の人が使う通路とは別の話ですよ。一般の人はあくまで地下通路なので
しょう。

【公民連携主幹】地下通路については、H25 年以降に着手予定です。

現在、東口には様々な民間の開発が進められてきており、町からは開発業者に対し、1
2メートル幅員の道路を作ってほしいという要望を出してきました。これは、行政的内容

であるので、事前協議を重ね、今回の業者がこちらの要望を受け入れたことから、工事に着手したところであります。

それでは、紫波町の意向をくんで、業者が道路工事に着手したということなのですね。だから、職員からこちら（地権者側？）に要望があったわけなのですね。

【公民連携主幹】 そうだと思います。

H14 当時、紫波中央駅の東口について議会で採択されたが、水害が起こったため、復旧費用に充てることになり、議会で決まったことを覆したことがあった。次に着手するのはH25年以降だということだが、この5（？）年間で着手することはできなかったのか。

【公民連携主幹】 当時で5億云千万円もかかる計画だったため、単年度の出費としてはかなりきついものがありました。

穴を掘るより、上に橋を作る方が、お金がかからないと思うけれど。もう少し、陸橋について役場も考えてみたらどうか。中央駅と日詰駅の利用者の推移についても見てほしいです。

【企画課長】 ご要望として、承ります。

東口について。「人がいないから、常駐の人を置かない」ということではなく、利便性が良ければ人は増えるという発想で見てほしい。日詰に住む住民とすれば、簡単でもいいから、東口から駅へ行けるようにしてほしい。そうすれば、車を使わずに自転車や徒歩で行くことができる。

他の市町村から見ると「人口も多くて盛岡市にも近く、交通の便も良い紫波町は良いなあ」と言われるが、財政的にはどうなのか。また、図書館、市民ホール、歴史資料館の3点セットがないという市町村は県内の他にはない。人間を育てるという観点から見れば、この3点は最小限の学習施設であると思う。今年「たき火」の巽聖歌70周年の年で、童謡祭りをぜひ日詰でやりたいと思っていた。これについては、ナックスホールをお借りして300席の規模で行う予定。また、紫波町郷土芸能50周年の大イベントを田園ホールでやる。

日詰に、公民館と一緒に文化ホール的なものをセットにして建ててほしい。資料館や観光センターなどがあっても良い。

他地区は公民館が拠点だが、日詰には普段から人々が集まれるような拠点が無い。他の地区は連帯意識が強いが、日詰は低い。箱物という意味だけではなく、町民の連帯の和を育ててほしい。

【企画課長】 町長のまとめの中で回答します。

中央駅の開発について。公用地の活用についてはすばらしいと思う。しかし、庁舎移転などについては、商店街としては検討しなおしてほしいという意見が多いと思う。まだ決まってないと数年前には言っていたが、今となっては決まったようだ。

また、庁舎跡地利用の話が無いという。そうではなく、移るのであれば、その後のことも具体的に考えるのが普通ではないか。周辺住民の意見を色々聞くのが行政としてあるべき姿ではないか。これまで「どうなのか」と聞いても、「まだ決まったことではない」と、一度も受け入れられる機会が無かった。庁舎が移るということは、都心が移るということ。移転を計画するのと同時に、住民のことも考えるのが大切なのではないか。

【企画課長】 町長のまとめの中で回答します。

27億で新庁舎を作るという話ですが、PPP方式を用いるのですか。15年、20年かけて払うため、あまり負担がかからないという話。単独で払うのと、15年で払う差額はいくらか。

【経営支援部長】広い意味ではPPPだが、PFI方式で作ります。27億は町で設計従来型での計算。今回の方式で、どのくらいかかるかということの計算は、コンサルティングに計算を依頼しているところです。

払う期間が長引くと、負担額は増えると思う。せっかく借金を減らしたのに、また増やすようなことをするのは、いかがなものか。PPPやPFI、なんの略語かわからないが、正道から外れているのではないか。今ある借金を、子どもや孫に残したくない。ぜひ、早めに情報公開してほしい。

矢巾の夏祭りに行って驚いたのが、若い人が多いこと、規模が大きいこと、場所の良さ。現在は、人口が上回っているが、数年後にはおそらく何から何まで矢巾に追い越されてしまうと思う。

しかし、矢巾の人に言わせれば「矢巾には勝てないものがある。日詰のような旧商店街はない」ということ。何が矢巾に活力をもたらしているかということ、学校があることを始め、若い人の定住が多く、駅の乗降客を見れば圧倒的に若者や学生が多いということだと思う。

紫波には、若い人を育てる環境が少ない。町には、公共用地以外にも広い土地や空き地がたくさんある。このままでは、町から人が減っていく。どう歯止めをかけるかについて、真剣に考えていかなければならないと思う。空き店舗もたくさんある。どうしたら若い人たちを育てていけるかということを大切にしながら、まちづくりを考えてほしい。

町長から

・消防について。消火栓を活用した地域の人々の防災訓練、防火活動に協力していきたい。

・水害。星山の堤防が完成した。次は、甘木や赤石神社の移転を計画している。なんとかして水害をなくしたいという意識で取り組んでいるところ。

・オガールの運営について。子育て応援センターの安全安心をどのようにして守るか。若いお母さん方がいかに安心して子育てできるかということが大きな課題。理解を図りながら進めていきたい。

・東口。何とか、JR の理解をいただきながら、東口をつくって、商店街との関連を作っていきたいと思っている。現在、町として、東口に60～70台の駐車場を確保している。考え方を明確にして、計画を進めたいと思う。

・財政について。県内のリストが無いので、経営支援部長から後で答弁していただきたいと思う。他市町村との比較については、8月にならなければ県からリスト来ないので、これも経営支援部長から後で答弁していただきたいと思う。

・庁舎移転について。庁舎跡地については、仮にこのような案はどうかということを示してきた。本庁舎跡には、紫波消防署。また、保健センター跡地には、町営住宅の移転を提案した。一方、跡地利用については地元と一緒に考えましようと話してきているので、このような話し合いの場を持ちながら、さまざまな活用の方向性を考えていきたい。私はずっと前から「地域のことは、地域の人たちが一番把握しているので、一緒になって考えるべきだ」と思ってきている。役場をつくる方式については、こちらから情報を公開しながら、これからご意見をいただきながら考えて行きたい。

・若者がいないということについて。紫波中央駅前開発では、今後2つの事業棟について、活用方法の考案を募集していく。その中には教育機関の可能性もあると考えている。働く場所については、職場はあるが、町の人が入ってこないと言われている。地域の人々と、色々話し合う機会をもっとつくらなければならないと思う。

庁舎跡地利用について、聞く機会を作ってほしい。

【企画課長】町としてもそのような機会は必要だと感じているので、1回ではなく何回か会を開きたいと思っています。

町の歴史に詳しい方々が亡くなり、H14年に歴史同好会を作った。紫波町では、教育委員会と民間の研究団体との関係が弱いと感じる。矢巾でも学芸員を置いて、専門的に勉強している。もう少し、文化面において、連携する、もしくは指導するということをしてもらえないか。次の世代の研究者を育てなければならないと思う。教育長から、何かご指導いただけないか。

【教育長】

- ・紫波町の子ども達、学力向上を第一に頑張っている。(特に英語に力を入れている)
- ・芸能活動、地域の方々の協力を得ながら行っていきたい。
- ・紫波町の歴史について。ご指摘について、そのとおりだと思った。

・教育委員会からも学芸員の配置を町長部局にお願いしているところだが、予算的な関係で、まだ配置に至っていない。あらえびす記念館でも、学芸員がほしいと言われている。職員を研修させ、資格をとらせたいとも思う。採用の方法を考えながら、やらなければいけないところでは、やっていきたい。

・紫波町の球場と田園ホール。紫波町と矢巾町とでお互いに使えるように協定を結んでいる。ご指摘については、私も気になっているところなので、少しずつ充実させていきたいと思っている。ご協力よろしく願いいたします。

平成23年度 まちづくり座談会（志和地区）

会場 農協志和支所

日時 8月1日（月）午後7時～9時

参加者 12人

役場出席者 12人（町長、建設部長、経営支援部長、教育部長、町民課長、環境課長、総務課長、学務課長、企画課長、防災室長、企画課職員3人）

質 疑 応 答

=====

放射能の測定結果数値を聞いても、どのように影響があるのか分からない。紫波町の学者や医者などで、どのように影響するのかを教えてほしい。また、放射能について安心できるようなパンフレットを配るなど、町民が安心できる策を考えてほしい。また、放射能は町で測れないのですか。

【環境課長】飯岡に「環境保健研究センター」というところがあり、原発事故以前からずっと放射線量を測っていますが、0.04 マイクロシーベルトなどずっと変化がない状況です。また、7月に県が紫波町内2カ所で計測した測定値も、通常と変わらない値でした。

また、今後は、農作物や土壌を直接計測できる簡易機械を購入する予定です。

【教育部長】学校については、6月の議会で、町内14小中学校のプール・土壌・空中線量の測定を行うことが決定しています。その内プールについては、業者に依頼して測定を終えており、本日速報値が届き、すべて検出されなかったことが分かりました。確定次第、町民の皆さまに広報などを通じて発信していきたいと考えています。

大学の教授や医者の話を聞けば、気を付けることが分かったり、安心感できたりする。町民に安心感を与える施策をしてほしいです。

【企画課長】 ご意見として受け止めます。

志和生活会館に大槌町吉里吉里からの避難者を受け入れたことで、本当にたくさんの方々にお世話になりました。避難者の方々も、5月20日の退所の際は、心から感謝して退所されていきました。お世話して良かったと感じました。

志和地区の地域力を結集した成果だと思えますし、この経験が今後の地域づくりのバネ、そして何かあった時の大きな礎になると思えます。

志和3区には空き屋が7軒ある。しかし、3.11の時、隣の空き屋に電気が付いた。地域の方々からも「空き屋が多すぎて心配」という声が上がっている。個人的なことだと思うが、地域で困っているため、町で対処してもらえないか。

【環境課長】草などがひどい場合は、管理するようと言えますが、「建物が古いから取

り壊してほしい」とは言いづらいところがあります。

【総務課長】現在、町内でも空き屋がたくさんあります。所有権の問題や、住所を追いかけるといふ作業があるため、ここでは即答できませんが、持ち帰って検討してみます。

その後の経過（総務課）

空き家につきましては、防犯・防災や環境の面から心配される場所ですが、一方で個人が所有している財産であり、所有者が管理すべき財産であります。また、この空き家に関する情報も、個人情報に該当します。

このことから、基本的には、地域で所有者が分かっている場合、地元の方々から所有者に対して実情をお伝えいただき、その空き家の適正管理を依頼していただきたいと思えます。所有者が分からないなどの場合は、個別に役場に相談していただきたいと思えます。

今年、クマがかなり出てきている。対策しているか。

【環境課長】クマは、昨年からかなり出てきているようです。

自然保護の立場から見ると、クマはまだ保護されている存在ですので、原則「追い払え」ということで対応し、それでもダメな場合は捕獲するというようになっています。志和では今年1頭捕獲しており、今日も1つわなを仕掛けてきました。ツキノワグマの保護計画というものがあるのですが、本当にクマが何頭いるのかは把握できていないのが実情です。殺しすぎず、増やしすぎないように対応していきたいと考えておりますが、頻繁に訪れて危険だという場合には、連絡いただければ対応いたします。

月に2回、世帯数に応じて広報紙が配付される。私の地区の世帯数は、89世帯だが、戸数は82戸。1戸に4世帯いるところがあるが、果たして4部必要なのでしょうか。130ある行政区を考えると、余計なコストがたくさんかかっていると思う。余った分は資源回収に出している。合理性に欠けているのではないか。

【総務課長】原則として、世帯数ごとに区長発送をお願いしています。ただ、今おっしゃられたようなケースの場合には、班長さんや区長さんから申し出をいただいて、減らして発送を行っています。

老人クラブは、60～80歳代のクラブで、20歳も年齢の異なる人たちが一緒に集っている。人がなかなか入らないという問題がある。

また、同じ世帯でも、20歳も年が違つと会話にならないために孤独を感じる。

しかし、いこいの家では、同年代の人たちが集まっているので楽しくやっている。年寄りが集まる場所としてはとても良く、孤独者も減ると思う。いこいの家をもっと充実させてはどうか。会費は3000円なのだが、もう少し上げてもいいと思う。

【企画課長】担当課が来ていないので、持ち帰らせていただきます。

町長総括でお答えいたします。

町の自治会で、法人化したところはあるのか。

志和3区の公民館は個人所有であり、土地は町のもの、建物はその当時の公民館長が相続名義となっている。亡くなったときの相続を考えるにあたり、自治会の法人化を進めたいと思っているのだが、どうすれば良いか。

うちも同じで、役場に相談しながら、法人化を進めている。

【企画課長】町内に法人化されている地縁団体が5つほどありますので、ご相談にいらして下さい。

志和2区には、道路の両側に側溝がある。10メートルの区間が土側溝になっており、片側が崩れてきているので、早くコンクリートなどで整備してほしい。

【建設部長】現地を見て確認をしてみます。

耕作放棄地の所有者が遠くにいて、手入れができない。困っている。

クマ問題。ハンターから聞くと、クマは高速道の柵を越えてくるそうだが、柵のバラ線の向きを変えると良いそうだ。どうにか話を通して、対応してほしい。

【企画課長】 農業委員会にお伝えします。

【環境課長】 猟友会の人と相談して、できそうであればやってみたいと思います。

一番問題なのは、やはりクマ。今年は異常に多い。片寄や沢田あたりにも出ている。何とかしてほしい。

上平沢小学校や三中のあるあたり、志和町から岩手米菓の道が狭い。除雪も大変。道路を拡幅できれば、子どもたちにとっても良いと思うので、なんとかしてほしい。

【建設部長】その道路沿いは、必ずしも広い土地を持っている人ばかりが住んでいるわけではないので、拡幅は難しいと思うが、これからは地域の実態に合わせた道路を作っていかなければならないと思っています。

堤防を舗装して通学路にしても良いのではないかと思う。検討してほしい。

【建設部長】不可能ではないと思う。一つの方法だと思っていますので、検討してみたいと思います。

地域の皆さまには、いつも子ども達を見守っていただき、ありがたいと思っている。地区民運動会でも感じましたが、片寄を含めた志和地区には、地域の結束力があると強く感じている。今後とも、地域の皆さまのお力添えをいきたいと思っていますので、よろしく

お願いいたします。

冬になると、精米工場から落雪や落氷があり、危ない。精米工場には申し入れをしたが、子どもが歩くところなので、心配している。

精米工場から紫波インター線の道路が狭いところも気になる。

【企画課長】役場で情報共有したいと思います。

県道の脇の草刈り。以前は水利組合でやっていたが、現在は、環境保全として部落で刈っている。どうしていったら良いだろうか。

【建設部長】地元から意見がでているということ、県に伝えます。

片寄小学校の学区が広く、1年生の子どもたちは大変だろうなと思います。暗くなると寂しい風景になるところもあるので、街灯がもう少しほしいと思います。

町長から

・空き家が町内全域に増え、管理が行き届かなく、困っているという現状がある。これからの課題。アメリカ・オーストラリアでは、草が伸び放題になっていると法律で罰金がある。これからは、そのようなことも考えていかなければならないかもしれない。現在、町で困っているのは、古館の工場の空き地。火が付けられたら、大きな被害がでると思われる。空き地の管理については、今後の課題としていきたい。

・クマの出没が多くなってきている。東側にはニホンジカやタヌキも出てきている。これは、動物と人間の知恵比べだと思う。あまり殺傷はしたくないが、適正な数を保っていきたいと思っている。今後の課題として、猟友会の方々と相談していきたい。

・いこいの家について。高齢者と家族の年齢の差のアンバランスがあるというのは、教育の課題に関わってくると思う。中国や韓国では、儒教の影響から、お年寄りを大切にする風習が備わっている。小～中学校の段階における家庭教育、学校教育でそのような意識を大切に教えていってほしいと思う。補助金制度については、県は廃止したが、町独自で補助金を続けている。予算の増額は、ご相談に応じて視野にいれたいですが、少し時間をいただきたい。

・耕作放棄地はあちこちで問題になっている。町は、農業と林業の活性化を目的に、農林公社を立ち上げた。目的の一つとして、耕作放棄地をできるだけ少なくし、農地化を進め、再活用を図りたいと考えている。持ち帰って、農業委員会に伝えます。林の手入れについては、エコビークーポン券を交付する補助金制度を設けている。ぜひご活用ください。

・通学路について。堤防を舗装して通学路にするというご意見については、県に相談してみたいと思います。また、道路の拡幅についても長年要望がある場所なので、今後の課題としたいと思います。

・たくさんのご意見をありがとうございました。これからも、皆さまからのご指導をよろしく願いいたします。本日は、夜分遅くまでありがとうございました。

平成23年度 まちづくり座談会（彦部地区）

会場 彦部公民館

日時 8月2日（火）午後7時～9時

参加者 12人

役場出席者 12人(町長、教育長、生活部長、教育部長、農林課長、都市計画課長、総務課長、企画課長、防災室長、企画課職員3人)

質 疑 応 答

=====

早急に放射能の検査体制をとってほしい。定期的に観測し、知らせるシステムを構築して、町民が安心できるようにしてほしい。

現在の防災計画は、主に防水を対象としている。このため、地震、火山噴火などの災害にも想定した計画をたててほしい。地震が起きた時、どこに避難したらよいかかわからないので、防災計画の見直しを含めて考えていただきたいと思う。

【企画課長】 役場においては、放射能の測定について、教育委員会と環境課で取り組んでいます。学校については、町内全小中学校のプールで「検知せず」という結果。空中線量と校庭の地表については、結果待ちの状態です。これまでは、測定を民間に委託してきましたが、現在、役場で自前の測定器を用意しようとしているところです。測定結果が出次第、皆さまにお知らせしたいと思っています。

【総務課長】 防災計画と防災マップについて。防災計画については、平成21年3月に見直しを行いました。放射能については想定されていませんでした。また、紫波町民が他市町村に避難するということは考えていましたが、他市町村民が町内に避難するということは想定していませんでした。今回の震災の経験を生かし、また、火山噴火などについても表記していませんでしたので、総合的に計画を見直していきたいです。

現在の防災マップは、洪水と土砂災害を想定したものになっています。そのため、避難場所になっている所の中には、地震の際に避難できる場所ではないところもあります。今後、自主防災活動を進めていくにあたり、地域の皆さま方と一緒に避難場所や避難経路をについて考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

紫波町の地震計はどこにあるのか。

【総務課長】地震計はそれぞれの市町村の役場付近に設置してあり、紫波町の場合は、町民課のすぐ北側部分、つまり四号線沿いに設置してあります。

役場の震度計は小数点以下まで出ており、テレビなどで放送される震度は小数点以下の四捨五入で決められているようです。この間の地震では、紫波も矢巾も震度3でしたが、紫波町の震度計は震度2.5でした。これまでの震度の違いから考えると、矢巾は震度3以上

あったかかもしれないと思います。

紫波町の地盤は固く、安定した地盤であると言えるのではないかと思います。

どこの省庁で付けた震度計ですか。付けた省庁が異なると、多少差が出るようなのですが。

【総務課長】すべての市町村の震度計は気象庁が付けたもので、そのデータが一斉に気象庁に送られるようになっています。

他の省庁で付けた震度計のデータを気象庁が集めているのではないのですか。

【防災室長】最初につけた時はそうでしたが、全て回収されて新しいものに統一されました。

自主防災組織について。役場職員も地域に出向き、組織化について一緒になって考えたらどうか。放射能や避難場所の耐震強度などについても、その際に一緒に説明するなど、行政の姿勢をアピールしてほしいと思う。役場で音頭をとってほしい。

【総務課長】放射能については、先ほど環境課長が申し上げたとおり、調査結果が出次第公表していく方針です。

また、自主防災組織については、どうしても「役員を決めなくてはならない」などと、重くとらえがちだと思います。109の自治会の会長さん方には、去年11月とことしの2月に、説明会を行いました。そこでお話したのは『大きな災害が起こった際には、地域の人たちが自主的に動ける体制をとってほしい。「できること探し」をしてみませんか』ということです。109のうち90近い自治会の方々に参加していただきました。まずは、お祭りなどの地区行事の集会などの際に、自主防災組織についても話し合う時間を作っていたらと思います。やれることを普段から積み上げていって、災害時に少しでも被害が少なくなるようにしてほしいとお願いしています。また、去年の説明会から1年経つあたりには、モデル活動や活動の提案などを行う説明会の開催を考えています。自治組織によって活動に差があるので、紫波町全体に自主防災活動を広げていけるように努めたいと思います。ご協力をお願いいたします。

この彦部公民館も避難場所に指定されているが、低い場所にあるので、水害時には、危険なのではないかと思う。避難場所は高い所にあるべきではないかと思う。

【企画課長】ご意見として承ります。

河東の小学校を合併しないことについて。なぜ、合併しないのか。

複式学級が増えるよりも、たくさんの仲間と一緒に勉強したほうが良いのではないか。

【教育長】大きな理由としては、小学生のうち、子どもたちを地域の中で育てたいと

考えているからです。

現在、町内の小学校には複式の学級が増えてきています。授業形態としては、主要5教科は単式、4教科は複式で行っており、基礎教科の学力は、複式だからといって、他の学校にひけをとっていません。小、中学校で違うのは、小学校は一人一人を伸ばすということ。人数が少ない学校には少ない学校なりの良い部分があると思います。

統合する場合、現在の地区から多くの児童がスクールバスで通学すると思います。しかし、ある程度の距離を歩きながら通うことも小学生の大事な勉強だと思います。

また、町の学校数が減れば、国は経費がかからなくなるが、町はスクールバスや人件費などのお金がかかるようになります。さらに、子ども達と地域の結びつきが薄くなれば、部落が壊れていく、文化の継承が廃れていくということも考えられます。このような点を踏まえ、現段階では、町教育委員会として合併をするという決断は、時期尚早ではないかと考えています。

やはり人数の多いところに入れたいと思い、町外の学校に子どもを入れる人もいます。その辺のことも考えてほしい。

【教育長】考え方は人それぞれだと思います。現在も、様々な理由から、学区が違うところから通っている人もいます。合併をするということは、小学校を新たに作ることであり、難しいところがあります。

また、現在、紫波町の子ども数は減ってきており、いずれは、紫波町全体の子どもが紫波一中の生徒ほどになる見通しです。そうすれば、紫波町には中学校は1校しかいらないう話になるかもしれません。その場合、現在の紫波二中が川東の小学校に、現在の三中が川西の小学校になるかもしれません。そのようなことも考えられるので、やはり、今すぐに教育委員会から町民に合併を提案するということは出さないという方針で考えています。

少人数教育にも良い点と悪い点があり、どこで妥協するかというのを考えるのが、行政の役割なのだと思いますが。

【教育長】小学校の発達段階で一番大切なのは、基礎学力を身につけること。町は、できるだけその子に合った教育を受けさせたいという考えで取り組んでいる。

他の市町村では1クラス40人学級制をとっているところが多いが、紫波町では、町内で一番大きい紫波一中でも35人学級制をとるなどして、一人一人に合わせた教育を目指しています。

大地町に立派な堤防を作ってもらったのだが、ゲリラ豪雨などが降った際に、水門を閉めるタイミングは町の方で管理をしているのか。また、どのように監視しているのか。

水門を作る前は、そのまま流れていくので良かったが、堤防ができたので、水門を閉め

るタイミングを間違えると遊水池になってしまうのではないかと、とても心配している。

【都市計画課長】国土交通省から新たに2人の監視人が委嘱されました。豪雨などの際には、国土交通省から担当者に直接指令が来る仕組みです。

それでは、国土交通省が直接立ち会うということはないということか。

【都市計画課長】

そうですね。過去の管理者の場合にも、直接立ち会うというようなことはなかったです。

濁流に流されることはないだろうけれど、遊水池にはなってほしくないと思っています。水があふれそうになった場合の対応について、町から何かアドバイスなどはないのですか。

【都市計画課長】確かにそのようなことも想定できますので、土木課を通して国に要望していきたいと思います。

小さい川や用水路の流量についての監視はどうなっているか。大雨が降ると、用水路の水、それから田んぼもあふれる。それで避難所へ行けなくなったことが2度ほどあった。そのようなところも役場で把握してもらえないか。

【企画課長】

要望として受け止め、担当課にお伝えいたします。

大路町の水道から、濁り水が出て困っている。赤い水が出るというのは、管の交換が行われていないからだと思うので、早く管の交換を行うか他地区の管を繋いでほしい。

【企画課長】 担当課が来ておりませんので、宿題とさせていただきます。

水道事業所に伝えた後、回答させていただきます。

水道の水圧が弱い。

【企画課長】 前の質問と合わせて、担当課にお伝えいたします。

赤石神社から紫波南大橋にかかる堤防の計画があるが、そこに堤防ができると、今度は川東の方が洪水になりやすくなるという問題がある。できれば、将来的には、川東地区にも堤防をつくることを要望してほしい。

昭和32年、200ミリ想定 of 堤防を作った。集中豪雨が降るようになって、上流が舗装化されて流量が変わったように思う。19年度の災害時には、堤防のおかげで流量がはやくなった。堤防の見直しをしなければならないと思う。

情報網使って流してもらっているのだが、やはり有線から地域の情報がどのくらい入ってくるか。有線を見直した方が良いのではないかと思う。町内の全戸に入ってもらった方が、情報共有できるのではないかと思う。

【企画課長】 要望として承ります。 現在、有線放送の加入率は町内の約4割、1万

500世帯くらいであり、それも徐々に減ってきています。分布としては、中央部は1割2割、周辺部は8割ほど。農協施設ですので、農協の意向や施設も老朽化など、全戸加入を実現するためには、たくさんの設備投資が必要となると思います。町でも、有線放送とは別に、情報を確実に伝える新たな手段も考えていきたいと思っています。

「エリアメール」や「ポータル紫波」とは何か。災害時にどのように活用できるのか。

【企画課長】「ポータル紫波」は、町のホームページです。従って、電気があるところではないと使えません。そのような中で、やはり役に立ったのは、有線放送でした。

また、「エリアメール」は、あまり古くないドコモの携帯電話で、配信時に町内にあるものに、強制的にメールが配信されるシステムです。今回の震災にあたっては、電力や水道などのライフライン情報の発信を行いました。

そのほかには、実際に町の広報車が5台くらい町内で広報活動を行いました。

町長から

・セシウムの問題。これから心配になるのは、米、牛。

・牛については、県がすべて買い上げ、検査を行い、ダメなものについては処分するというのを、県の予算でできないのかということをお願いしていきたいと思う。最終的に東電や政府が補償するということができれば、それを請求して県にわたすということができないのだろうか。現在、県から言われているのは「農家が無担保無利子で借りる」という方法。とんでもないことだと思う。県と国に強く要求していきたい。

・水害対策について。現在、大地町の工事が完了したところ。次に調査を行っているのは、甘木。住家に被害を被っているところを中心に、築堤を行っていく予定。その次は、赤石神社から築堤していく計画。

なんとかして紫波町の水害をなくしていきたいと思う。他地区のことも合わせて、内水源の排水をどうするかということを考えている。

・水道の問題。赤水の原因となっている紫波橋に架かる管を変えるというのは、国の許可が必要であるなど、至難の業。そのことについては、水道事業所でも様々思案中。

過日、水道広域化の説明会を行った。なぜ統合するのかということについては、紫波町の水について、水源の問題を考えなければならないこと、そして最悪の場合を考える必要があるということが挙げられる。

現在は、川下から水を持ってこなければならず、一番高いところで250メートルの標高差がある。現在の財政でいくと、町の水道管をいまから変えるには、330年かかる。なんとか30~40年に1度交換を行い、安全でおいしい水を町の皆さんに提供できるようにしたいと思う。紫波町の水道料金は、統合する3市町の中では一番安く、広域化によって水道料金が若干値上がりしますが、地域のみなさんにおいしい水を提供したいという思いから、取り組んでいきたいと思っている。

国土交通省には、早く老朽化の進む紫波橋の掛け替えを行い、水道管交換の要望をしたい。水道については、広域化によって少しずつ良くなるはず。みなさんから広域化について許可をいただきたいと思う。

・本日は、夜遅くまでたくさんの方々にご参加いただきありがとうございました。ご提案いただきました内容は、できるだけ実現してまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

平成23年度 まちづくり座談会（水分地区）

会場 水分公民館

日時 8月4日（木）午後7時～9時

参加者 22人

役場出席者 13人(町長、生活部長、経営支援部長、教育部長、商工観光課長、土木課長、水道事業所長、総務課長、税務課長、企画課長、防災室長、企画課職員2人)

質 疑 応 答

=====

町では、防災備品の備蓄はどれくらいあるのか。

【総務課長】現在、毛布400枚、水3千本などを備蓄しています。ただし、3.11の震災時に公民館などに避難した方々には、カンパンではなく、カップラーメンや炊き出しなどの提供を行いました。

自主防災組織について。3.11以降、やはり自主防災組織への意識が高まったと思う。

吉水公民館の総会で、公民館の中に防災部を作った。その中の何人かで規約づくりをしている。どの時点で、役場に報告すればいいか。

【総務課長】109ある町内会のうち、現在、組織化されているのは8つ。既存の組織の中で防災活動ができるよう地域での結びつきができればという思いで、昨年から説明会を行ってきました。組織ができ、名簿や規約などができた時点でご報告いただければと思います。また、困ったことなどがあれば、総務課までお気軽にご相談ください。

町の補正予算が8千万と聞いたが、どのような用途で使われるのか。

【企画課長】農道関係に1200万、環境保全型農業の支援補助金に1500万、大迫にある町有林の権利を県から買収するのに1350万ほどの計上となっています。また、道路の復旧・修繕費としては4000万円の予算になっています。そのほか、細かい点としては、放射線量測定の業務委託や被災証明の発行などがあり、すべて合わせて8320万の補正予算となっています。

私の近所に独居老人が多い。組織としてではないが、地震などの際には、その方々に一言声をかけて歩いてきた。「誰かがやる」ではなく、近くだけでも良いと思うので、自分から積極的に動く活動を自分はやっている。

【企画課長】ご報告を承りました。

=====

オガールと環境について伺いたい。国には環境影響評価法、県には環境影響調査法がある。オガールは、規模からこれらに該当しないことは承知しているが、町としては、環境改善についてどのように考えているか。

議会報で、「オガールと医療機関との意思疎通がうまく図られなかった」というようなことが書いてあったが、どのような点だったのか。将来に禍根を残さないようにしてほしい。

ラ・フランス温泉館について。紫波まちづくり企画が、太陽光発電などを導入した。その機種は、さまざまなメーカーがある中で、外国製のものを選んだと聞いた。それほど国内にはシェアがないもののようなのだが、「高い変換効率」とパンフレットには書いてある。外国製を選んだわけを教えてください。

【企画課長】 オガールエリアの環境対策について。現在、実際に進んでいるのは、オガールプラザのみですが、木造の作りにする部分については、町産材をできる限り使用したいと考えています。また、冷暖房については、最初は電気ヒートポンプを使用する予定ですが、将来的には木質系ペレットボイラーを導入したいと考えています。エリア全体としては、再生可能な自然エネルギーに重きをおいて、電力供給を行っていきたいと考え、色々な方法を模索しているところです。

【経営支援部長】 ワークショップなどの発表会を兼ねて、オガール A 棟・D 棟への出店募集などについて説明するイベントを行う際に、医師会を通じて連絡していなかったことが問題となり、不満を与えてしまいました。

事前に、広報紫波ネットやインターネットなどでも周知を行っておりましたが、医師の方々には伝わっていなかったようでした。今後、案内や説明を行う際には医師会を通じて行うようにしてまいります。

【商工観光課長】 ラ・フランス温泉館とホテル湯楽々では、太陽光発電、太陽熱回収施設、温泉廃熱回収の3つの設備を投入しています。町への環境配慮もありますが、油の今後の高騰を考慮し、経営に気を配ったものと言えます。

これらは、町の直接の事業ではなく、紫波まちづくり企画が行っているものであり、機種選定にあたっては「環境エネルギー普及」という設備設計を行う会社とみらい研究所が行いました。国内外さまざまなところを視察し、その中から一番良いものを選んできたということだと思えます。

セシウム問題について。草を県で買ってもらった方が良いというのはどういうことを考えてか。

【町長】草ではなく、牛を買い取ってもらうということを考えています。福島方式を岩手でもやってほしいということです。買い上げた牛のうち、安全が確認された牛は市場に出し、放射生物質が検出されたものは処分するというのをやってほしい。エサについては、安全なエサを国で提供すべきであると要望します。

えこ3センターで、セシウムの検査すれば、町内のこともある程度分かると思うのだが。

【町長】国からの指令で、牛のたい肥は動かせない。しかし、その間どのようにしておけば良いのかについては何も指示がない。

紫波の牧草から、放射生物質が出ていないと分かれば、出荷しても良いと思うが、国から数値が公表されない。国に振り回されているのは、農家と地方自治体。我々は「町は安全」と言えるよう、土も米も調査し、収穫までに安全性を証明したい。

「日詰」のローマ字表記を統一してほしい。「HIZUME」か「HIDUME」か、いずれが正しいか。町で基準を決めてほしい。

【企画課長】表記については漢字表記「樋爪」「比爪」「東根」などの問題もあります。今後の研究課題とさせていただきます。

えこ3センターの食品残さについて。計画からいくと、約6割くらいしか食品残さが使われていない。食品残さの割合を6割超に高める方法ないのか。

当初、食品残さで作られたたい肥あまり評判がよくなかったため、現在では畜ふん中心になったと思う。しっかりと町民のニーズには合わせているのか。

【企画課長】 町長総括で。

町内で育てているもち米のヒメノモチ、モチビジンは品種改良しないのか。新しいモチ米を作ってもよいのではないかと思う。

【企画課長】品種改良に関しては、県で進めていますが、要望として受け止めます。

品種改良に関連してですが、ヒメノモチは早くできすぎるので、新品種は、もう少し遅く収穫する品種が良いと思う。

震災対応として、町外からの依頼によって、町内で火葬したものはどれくらいか。

【町長】県の指示で、98体の火葬を行った。炉は2つあり、1日に3回転で行いました。3回は町民用、残り3回は町外からの依頼のものとして使用しました。

補足)通常は、年間で250体くらいです。

公民館の利用は、若い人よりも年配者が多い。やはり体力がないため、倒れることが予想されるが、そんな時にAEDがあればと思う。紫波消防署での講習も受けているが、実際の物が公民館にない。小学校にはあるが、日曜日や夜には利用することができない。各地区公民館にAEDを設置することを要望します。

【教育部長】学校を優先的に設置しましたが、地区公民館にも設置したいと思っています。今後、希望に添えるように対応したいです。(10月に全地区公民館に設置済み)

婦人消防協力隊に入っている。自主防災のことについてだが、古館では結構進んでいる印象。古館で火事があった際には、公民館主体で協力して活動しており、すばらしいと思った。地域の人ならば、2～3年で変わるということがなく、引き継いでいくことができると思うので、自主防災組織づくりはどんどん進めていった方が良いと思った。役場でもリーダーシップをとって自主防災組織づくりを進めてほしいと思う。

また、「災害時要援護者台帳」というものがあることを知らなかった。実際の災害時には、他団体とも協力しながら婦人消防協力隊として役に立ちたいと思う。

【総務課長】自主防災組織は、現在、町に7～8つしかありません。手を挙げた自治公民館に、職員が出向き、話し合いを重ね、年に2～3組織できてきました。しかし、それでは遅すぎるということで、昨年11月に自治公民館長さんたちを対象に説明会を開きました。そこで話したのは、公民館活動の一コマに、自主防災活動をしていただけないかということ。危険箇所や避難経路、災害時弱者の確認、また、平日の昼に残った人が何をできるかということなど「できること探し」をしてほしいと思います。昨年の11月の話し合いから1年経ったならば、アンケートをとり進捗状況を伺おうと思っています。少しでも災害時に、被害が減るようにしたいと思っています。

要援護者名簿については、民生委員、行政区長、消防団に配付を行っています。しかし、役場が把握している災害時弱者の約半分が公表しないでほしいといひます。しかし、3・11の震災後に意識が変わってきているかもしれないと思いますので、再度確認を取り直す必要があると思います。要援護者名簿に関して、婦人消防協力隊のあり方についても検討していきたいと思います。

町長から

- ・今日は一番の集まり。関心を持ってくださって、ありがとうございます。
- ・お話してくださった方の「一戸一戸確認する」ということ、これが基本ではないかなと思う。阪神大震災の時には、公的機関の5%しか機能しなかったと言われた。地域のことは地域の人が一番知っている。すばらしい意見をありがとうございました。
- ・ラ・フランス温泉館の施設について。震災前後にちょうど完成した。それまでの半分以上、油がかからないことがわかった。また、被災したことを知った、ドイツの会社から耐熱と太陽光発電60セット、街路灯30棟をいただいた。現在、環境関係の方々から寄附金をいただいて設置したいと思っている。
- ・モチ米の新品種について。いっきに収穫するのを避けるため、モチビジンを開発したが、それと別にまた新品種を作っているようだ。非常に良いと思う。
- ・エコ3センターについて。食品残さは80～90%の水分。とても水分が多いので、乾燥させるのにコストがかかる。試行錯誤して進めている。
- ・今後は、見やすく有効な防災マップを作っていきたい。
- ・セシウム問題。みなさんにしっかりと広報していきたい。

・本日は誠にありがとうございました。

平成23年度 まちづくり座談会（古館地区）

会場 古館公民館（ふれあいホール）

日時 8月7日（日）午前9時30分～12時

参加者 32人

役場出席者 13人（町長、教育長、産業部長、経営支援部長、町民課長、土木課長、下水道課長、企画課長、防災室長、企画課職員4人）

質 疑 応 答

=====

古館ニュータウン内にある消火栓が少なく、また、水圧も弱い。また、婦人消防協力隊のあり方についても考えてほしい。当番が強制的に回ってきて迷惑である上に、さらに自主防衛組織を作れと言うのは、大変。区長さんの負担が大きいと思う。

除雪について。私たちには、どこが業者でどこが役場管轄の路線なのかが分からない。きれいに除雪している道路もあれば、でこぼこに雪が残っている道もある。また、役場管轄の幹線道路においても、私たちが除雪した後に、除雪車が雪をどっさり残していく。非常に危ない。また、排雪する場所についてもわからない。除雪を行う季節になる前に、地域の人と話し合う機会を作ってほしいと思う。

水道の広域化について。災害時には、どのように対応をするのか。また、今の水道施設はどうするのかということを知りたい。

【経営支援部長】 消火栓は、消防署の指導をもとにつけております。ただ、消火栓の水圧については、消火活動に直結する大変重要な観点であると思いますので、水道事業所にお伝えします。

婦人消防協力隊について。なかなか取り組みづらいのかなと思います。古館地区は新旧住民と一緒に暮らす地区であることから、自治組織を作っていくための活動が、とくに重要になると思います。町としても、皆さんのご意見をいただきながら進めていきたいです。

【土木課長】

除雪について。ご指摘のような状況がありましたこととお詫び申し上げます。

町の除雪状況としては、935キロのうち、530キロを除雪しており、なるべく早く除雪を行うため、26社にお願いして対応を行いました。機械は、国道や県道についてはグレーダー、小さい道はドーザーを主に使用しています。ただ、ドーザーのない業者もあるため、建設業者以外の会社や、機械を持っている方々にもお願いし、現在の26社となっています。

また、除雪の仕方は、雪の降り方や降った時間帯によって変わってきます。長く降り続

く雪や夕方から降った雪の場合、交通量の少ない夜中に除雪を始めますが、朝にはまた雪が積もった状態になってしまいます。また、朝方から降った雪だと朝に除雪を行わざるを得ず、通行量が多いためなかなか除雪が進みません。また、各家々を念入り除雪すれば、全体の除雪が終わらなくなってしまうという現状があります。ご指摘のような状況があり、ご迷惑をお掛けいたしますが、個々の家の入り口部分については、自分たちで雪を払うようお願いいたします。できないという人もいらっしゃると思いますが、その点については「共助」していただきたいと思います。

除雪を行う業者がわからないという点につきましては、情報提供不足だったかもしれないと思っています。なるべくわかるようにお伝えいたします。

また、排雪場所について。古館ニュータウンは、密集しているため、雪を道に寄せるしかできないという問題があります。エリア内で排雪に利用している場所は、公園です。また、そのほかに、運ぶお手間をとらせませんが、公共の排雪場所としては、中央駅前と上平沢を指定しています。除雪と排雪を一緒に行うのは難しいですので、その点についてはご理解をお願いいたします。

古館ニュータウンの方々にお願いしたいのは、ニュータウン内で意見が分かれていること。道路をしっかりと払ってほしいということと、自分でやるからはらうなというところがある。このように隣同士で意見が異なると、両方を満足させるのが難しいですので、そのような問題があることをご了承ください。

除雪ボランティアの方々には、大変感謝しています。役場の手押し除雪機2台で、歩道の除雪をしていただいております。

私が言っているのは、地域と話し合ってから除雪してほしいということ。雪が多かった去年ばかりの話ではない。写真も撮っている。

どこの業者かがわかれば、地域でその業者と話し合う。一番困るのは、除雪された後に、固まった雪をどっさり置いていかれること。個別にさまざま問題があるのだから、業者が決まったら地域ごとに業者と話し合いを行い、除雪をした方が良いのではないかとっているのだ。真摯に話し合えば、解決につながるのではないかと思う。

【土木課長】

今年の除雪の参考にさせていただきます。

【下水道課長】

電気がなければ動かない、という点では上水道も下水道も一緒。今回の地震では、管に故障などはなかったが、停電が起こったために支障が出てしまいました。公共下水道では、備蓄している重油で50時間ほど、自家発電よって持つようになっています。そのため、公共の方が災害に強いと言えるのではないかと思います。いかに必要な電気を確保するかが下水の災害対策となります。

水道も、電気で水をきれいにし、各戸に送るという仕組みになっています。紫波町では自然水を使っていますが、自然水は地震で汚れるので、地震に弱い部分があります。また、日照りになれば水量が減ってしまうということも起こります。広域化が進めば、何かあった際には他の自治体から水を買上げることが出来ますので、かえって災害には強くなるのではないかと思います。

先ほどの除雪の話について。雪が降る前に、業者と地区が話し合いをするということには大賛成である。また、紫波高から北の歩道（跨線橋）を除雪していただき、ありがたい。

古館地区はつながりがいい。自治公民館があるからということで、コミュニティーがあるように思われているのかなと思うが、旧世帯とニュータウンを同じように考えてもらっては困る。

古館ニュータウンには、紫波町の住民の4分の1以上が住んでいる地区であるし、移り住んできた人ばかりなので、子育てが終わればあっという間に、年寄り世帯や一人暮らしになってしまう。やはり古館ニュータウンには、早く「地域」というものを作らなくてはならないと思う。それを自分たちでやる事ができれば良いのですが、そこは町にも協力していただいて、地域で話し合いができるようにしてほしい。そして、防災組織や独居老人、除雪の問題などもすべて地域で話し合い、地域のつながりを一日も早く作り上げてほしいと思う。そうでなければ、安心して老いることができない。

地域のつながりづくりは緊急の課題。行政区ごとに、自治や防災、地域福祉についてまとまりをつくらなければならないと思う。案を示してもらい、みんなで話し合っ、地域に合った組織をつくっていききたい。

セシウムについては、学校だけでなく保育所や農作物など、総合的に調査してほしい。

内陸直下型地震がくれば、水道広域化も危ないのではないかと思います。

また、水道広域化のメリットとデメリットをしっかりと公表すべきだ。

先日、水道広域化の説明会が古館公民館であった。古館の浄化槽が古いことや、水道料金が高くなることなど、私は初めて知った。ぜひもう一度、水事業所の人に説明会を行ってほしい。

また、地域づくりについては、上からの指導ではなく地域にまかせてもできると思うが、町は後から支援してほしいと思う。

【経営支援部長】自治組織づくりについて。まずは、後押しとして、どのようなやり方が適切なのか、地域の方々との話し合いの機会を持たらよと思っています。

【町長】水道広域化について。なぜ広域化が必要なのかご説明申し上げます。

安全な水を確保し、供給することを実現するためには、近い将来水が足りなくなる予想もあり、長期的な貯水計画を立てなければなりません。また、安全な水を届けるには、管を入れ替える計画を立てなければならないのですが、現在の財政で計画を立てると、すべての交換に330年かかります。それが、広域化を行うことで、40～60年に1度、管を更新することができるようになります。バイパスを持ち、何かあったときに備えられるようにすることが大切だと思っています。水道料金は若干高くなりますが、将来もその料金のままに維持できます。一方、紫波町単独で行っていく場合、現在の料金では管の交換ができないため、いずれは料金を上げなければなりません。以上のような点を踏まえると、統合をした方が良いのではないかと考えています。

【産業部長】

セシウムについて。町内小中学校のプールは計測が終了し、問題ない結果が出ています。また、土壌と空中についても、結果が出次第、順次お知らせしていきます。それから、県が、役場裏と赤沢児童館で計測した結果、こちらも問題無い測定結果となりました。

もう少しで、盛岡保健所も測定器が納品されますし、町でも計測器を買う予定です。ご依頼があれば希望の場でも計測が可能になります。

【企画課長】

水道の説明会を再度開催してほしいということにつきましては、水道事業所にお伝えします。

震災直後に開設した、町内の避難者を対象とした避難所の反省点と満足度はどうなのか。また、今回の震災発生は平日の日中だったため、施設に職員がいたが、夜に災害が起きた場合には対応ができるのか検証してみた方が良いのではないか。さらに、大槌町からの避難者とボランティアなどの方々とのコミュニケーションはうまくいったのか。支援に支障はなかったのか。

この地区では、隣同士で話し合いをしなければならない地区でありながら、隣同士のことをほぼ知らないという実情がある。公民館や地区で集まりを開いても、ほんのわずかな人しか集まらない。要は、地元にいる隣同士の交流、あいさつが、常時なされているのかということが大事なことであるということ。防災についても、縦割りの組織化ではなく、近所づきあいが最も基本的な単位だと思う。私たちの地区では、自主防災の話し合いがスタートしている。今後も、場面場面でそのような話をしていきたいと思う。近所や隣の地区同士などで、スムーズに話すことができる地区になればよいのかなと思う。

セシウムについて。地区の集まりで、農家の方々が不安だと話していた。当町の基幹産

業である農業に影響が出た場合、町としてはどのような補償を行うのか。

【経営支援部長】

避難所について。電気や水がなくて困っている人たちがたくさんいらっしゃいましたが、対策本部として、まず急いだのは独居、高齢者の安否確認です。まだ避難所の設置が続いていることから、総括はまだしていませんが、総括したならば、新しい防災計画に生かしたいと思っています。また、大槌から避難された方々からは感謝の声が届いており、ある程度満足していただいたのかなと思っています。

古館地区は、行政区の人口が多く、自治公民館単位になると、もっと規模が大きくなってしまいう地区もある。町はこのような現状を踏まえ、どのようにしていけば最善の方法になるのかを考えていきたいと思っています。皆さんとの話し合いの場を持ち、実情をお聞きし、コミュニティーづくりをお手伝いできればと思います。

【教育長】 中央公民館で開設した避難所については、少人数でしたが、毛布や暖房などの必要最低限のものは提供できたと思います。

また、震災の翌々日くらいのこと。実家がある紫波に子どもを預けにきた大槌の小学校の先生が、私のところへ大槌の状況を報告に来ました。そこで、大槌の被害の状況を知り、町長に相談したところ、大槌などの他市町村の支援が決まったという経緯があります。

【産業部長】 きゅうり、稲わらについては検査済みです。ほかの農作物についても、今後細かく検査をしていきたいと思っています。米は古米から売れているという厳しい状況。牛については、県に買い取りを要望していきたいと思っています。

防災組織について。自治公民館単位ではなく行政区単位で、1つのネットワーク作りをしていきたいと思う。福祉ネットワークというものもすでにある。そのようなものをもう一度見直し、行政区として何ができるかを考え、一歩踏み出した方が良いと思う。私たちは10区ですが、準備を始めている。私たち自身が、そのような「典型を作っていく」ための努力をしていった方が良いと思う。

セシウムについて。牛出荷停止の直前に農家の人泣いて話していた。市場に行くが、買い取り業者が来ないということ。とてもみじめな思いをしている。県に、農家の方々が再生できるように補償などの要望をしてほしい。

セシウム問題について。農家に支援ではなく、「補償」を行ってほしいと思う。

また、コミュニティーの問題で、先ほど「子どもたちが独立してしまって、二人暮らしや独居になってしまうと、老後が心配」という話があったが、子どもさん方から隣近所の人に「自分たちがいない間、親の面倒を見てほしい」とお願いしても良いのではないかなと思う。

私たちの近所にも一人暮らししている人がおり、隣近所の人たちが心配をしている。しかし、お子さん方からは一本の電話もないそうだ。近所で仲良くしていくという話だが、そのようなところも考えていただきたいと思う。

道路工事について、再請願した。なぜ 18 年もかかるのか。「お金がない」と言うが、本当にお金がないのか。必要なところに使わないで、ほかにお金をかけているのではないか。

【企画課長】 防災組織について。お話いただいた内容は、一つの先進事例だと思いません。これからもお話をうかがっていきたいと思います。

【産業部長】 国がしっかり補償してほしいということを要望しているところです。

【土木課長】 お話の場所については、現地を確認しています。舗装については、18 年前に請願が出されており、昨年再請願され、採択されました。「雨が降ると、砂利が流れて危ない」という内容だったと思います。ただ、その道路を舗装するためには、路盤改良が必要になります。そして、舗装の前に水を処理しなければならず、側溝を作ると下流で水があふれるという問題が発生します。今後、下水道を整備しながら、工事を進めていかなければならないと思っています。

また、請願道路はかなりの件数があり、緊急度を測りながら工事を行っているところで。明確に「いつ」とは言えませんが、改善に努めてまいります。

松くい虫の被害が増えている。平井邸などの、どうしても守りたい松にまで被害にあうのではないかと不安。予防対策などをしてほしいと思う。

生涯学習課を町長部局に移していただきたいと思う。地域作りとなると、どうしても役場との関わりが大きい。花巻市を参考にさせていただきながら、検討してほしい。

お礼を申し上げたい。

選挙の投票率のこと。投票所は長い間、体育館だったが、今回は新しく建ったふれあいホールで行われた。初めてホールに入った人たちは「良い建物をつくったなあ」とみんな言っていた。町長さんはじめ教育長、議員さん方、本当にありがとうございました。

この場でいくつかの課題がでたが、その課題に向かい、色々なご意見を承りながら、まちづくりの発想で進めていきたいと思う。よろしく願います。

旧高文自動車学校の敷地について。蚊やブヨが発生して家に入ってくることもあるし、木々が生い茂って道路にはみ出して街灯が暗いという問題もある。花巻の社長に何とかお願いしてほしい。

古館駅前の整備計画をよろしく申し上げます。

【土木課長】

4号線から駅までは県道の部分になります。朝の通勤時間などに車が混雑するので、町道として、現在の砂利道部分を舗装してロータリーにしたいと思っています。

【企画課長】

旧高文自動車学校の跡地については、持ち帰って宿題にさせていただきます。

町長から

・自治会組織、行政区のあり方についてご意見をいただいた。これは、自治体のあり方や防災組織のあり方にも関わってくる。地域の方々からご意見をいただきながら、方向性を模索していくことが大切であると思う。

阪神大震災の際には、自治体が果たした役割は5%しかなかったと言われている。やはり、いざという時は近所や地域のつながりが大切だと思う。まず、隣同士が大きな力になるかと思えます。

役場でも、福祉課を中心に安否確認を行っているが、当地区においては「要援護者名簿を公開しないでほしい」という人が半分以上いる。今回の東日本大震災後には、意識が変わってきていると思っているので、再調査を行いたいと思っている。一人暮らしの方の安否確認が迅速にできるようにしていきたい。

・水道広域化について。説明会を再度行ってほしいという声があった。みなさんにぜひ理解していただき、広域化を進めていきたいと思う。水道事業所として、最大限の努力をして、安全な水を供給していきたいと思う。

・松くい虫については、今後も引き続き、県に予算を求めていく。

・セシウムについて。今回の被害の原因は、明らかに東京電力にある。東京電力が補償できない場合には、国が補償しなければならない。県から言われたのは、農家の方々には農協からお金を借りてしのいでほしいとのこと。これはおかしいと思う。補償については、今後も県に強く求めていく。

紫波町の基幹産業は米、果物、牛。町民の皆さんが路頭に迷うようなことがないよう、最善の努力をしていきたいと思っているので、よろしく願いいたします。

・本日は誠にありがとうございました。